

烏帽子会會報

2009年秋号 Vol.47

平成22年は“3”の年です。“3”の付く回の皆さん
思い出の年になりますよう。



建設中の新診療棟とその向こうに油山、手前は五ヶ村池

- 研究奨励賞論文抄録 7p
- 研究奨励賞、在外研究援助金募集 9p
- 教授就任挨拶（宮本、柳瀬、柴田） 19p
- 教室・部門紹介 26p
- 医学部同窓会諸表 44p
- 正会員75周年事業寄付情報 48p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・会長挨拶 100%!	高木忠博	3
・総会報告 第28回烏帽子会総会報告	笠健児朗	4
・研究奨励賞 平成21年度研究奨励賞選考報告	大慈弥裕之	6
・平成21年度授賞論文抄録・研究報告 胎児期の栄養状態が胎児脂肪細胞に影響を与え疾病発症を プログラムする機序の基礎的検討〔計画〕	深見達弥	7
合成高比重リポ蛋白の心筋梗塞後リモデリングに対する抑制効果の検討と その分子機序の解明(論文)	木谷嘉博	7
HDL-associated factors provide additional prognostic information for coronaryartery disease as determined by multi-detector row computed tomography(論文)	光武良晃	8
Small cluster invasion:a possible link between micropapillary pattern and lymph node metastasis in pT1 lung adenocarcinoma(論文)	川上豪仁	8
・募集要項 研究奨励賞・在外研究援助金		9
・評議員会 平成21年度評議員会議事録		10
・在外研究援助金受給者報告 在外研究報告	八尋英二	16
University of California, Los Angeles:Southern California 留学紀行	森下雄一郎	16
Denmark 留学報告	新屋智志	17
クリーブランド留学報告	川浪大治	18
・教授就任挨拶 活性化した教室づくりを目指して	宮本新吾	19
教授就任挨拶	柳瀬敏彦	20
福岡大学筑紫病院整形外科教授に就任して	柴田陽三	21
・教授就任祝辞 柴田陽三先生 福岡大学筑紫病院教授 ご就任の祝辞	原道也	22
・お詫び パニックマニュアル発行遅れ		22
・教授退任挨拶 退任ご挨拶―感謝―	池田靖洋	23
・学生対策報告		24
・教室部門紹介 福岡大学医学部 解剖学	入江豊	26
福岡大学医学部 細胞生物学	土井佳子	26
福岡大学医学部 生理学	市川純	27
福岡大学医学部 生化学	四元房典	27
福岡大学医学部 薬理学	山本信太郎	28
福岡大学医学部 病理学	久野野敏	29
福岡大学医学部 再生・移植医学	小玉正太	29
福岡大学医学部 衛生学	百瀬義人	31
福岡大学医学部 法医学	久保真一	31
福岡大学医学部 RI施設	高見昇	32
福岡大学医学部 精神医学	高田中謙太郎	32
福岡大学筑紫病院 消化器科	高木靖寛	33
福岡大学筑紫病院 整形外科	秋吉祐一郎	34
福岡大学筑紫病院 脳神経外科	新居浩平	34
福岡大学筑紫病院 泌尿器科	石井龍	35
福岡大学筑紫病院 耳鼻咽喉科	一番ヶ瀬崇	35
福岡大学筑紫病院 放射線科	中島力哉	36
・在外研究援助金受給者名簿		36
・キャンパスだより		37
・計 報 追悼 由村俊二先生を偲んで	大坪東彦	42
・平成22年 医学部医学科入学試験の要点		43
・医学部同窓会諸表		44
・医局長・医長名簿		46
・大学首脳人事・教育職員人事		47
・正会員75周年寄付情報		48~51
・第29回 医学祭		52
・編集後記		52

会長挨拶

100%!

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生)



完璧!と言う事を表す数字を、100%と書く約束になっています。この言葉への好き嫌いは人夫々でしょうが、この数字

が生み出す人間への効果を論議された話はあまり聞いた事がありません。人間が、この100%へ向かって真剣に突き進む時の姿は、人間と言う霊長類を大変美しく見せるエネルギーを持つ様に思います。その一番身近な例がスポーツです。最高=100%の演技をしたアスリートの姿は人を感動させ、社会的にも高い評価を生み出します。当事者を決して悪い方向へ向かわす事はありません。

100%を達成したアスリートには、自負、自信、次への希望(意欲)が自動的に発生し、そのアスリートは必ず一步大きく進歩します。我々も自力で考えた

通り100%の治療で患者さんを完治させた時の何とも云えない充実感も、100%と言う数字が持つ共通の魔力ではないかと思えます。

100%は最初から無理ムリ!と白旗を揚げて物事へ向かう人がいますが、負け犬の遠吠えの様に聞こえて余り好きではありません。100%への挑戦者には無理と言う言葉は無いと思っています。

100%国試合格は、医学部内に一体感を作り出し、学生に自負を持たせる事になり、大学への研修医も増加する様です。「これが一回の達成でも起こる事象なんです。」と、100%を経験した大学同窓会関係者は話します。

次に、100%の寄付活動を簡単に試算してみます。全員3278人として3278人×10万円=3億2780万円になります。1万円でも100%なら3278万円と大きな数字に化けます。これが100%の力だと思います。多分、100%体験の魔力は、人間に普通以上の力を発揮出来る事を発見させ、状況を変える力さえも持っている事を自覚させる様に思います。100%に拘る超不完全人間の戯言と一笑に付されるでしょうが、小生はこの力を信じたいと思っています。



12回生から13回生へ幹事引継ぎ

今年は“3”の年

本年7月、第28回烏帽子会の席上、写真のように第12回生から第13回生へ総会幹事の旗が引き継がれました。今年は“3”の年です。13回生がリーダーとなり、3回生、23回生、33回生と協力して烏帽子会を盛り立てて下さい。お手伝いします。

事務局

総会報告

第 28 回烏帽子会総会報告

第 28 回烏帽子会総会を成功させる会事務局 笠 健児朗 (12 回生)

平成 21 年 7 月 11 日、ホテル日航福岡において、第 28 回烏帽子会総会・記念講演会・懇親会が行なわれました。

特別会員：木船 悌嗣名誉教授、曾田 豊二名誉教授をはじめ、総数 140 名の御出席をいただきまして、ありがとうございました。

好評だった、南 俊秀先生、「医療現場は、なぜ荒れるのか」の御講演の後、懇親会となりました。平成 21 年度の研究奨励賞受賞者の発表並びに表彰が行われ、朔選考委員からの選考の経緯についての御説明の後、高木会長から祝辞、賞状並びに賞金目録が授与されました。今年度の受賞者は、以下の 4 名です。

深見 達弥先生

22 回生 福岡大学 産婦人科 助手

川上 豪仁先生

22 回生 福岡東医療センター呼吸器外科勤務

木谷 嘉博先生

25 回生 福岡大学 臨床検査医学 助手

光武 良晃先生

25 回生 福岡大学 心臓血管内科 助手

又、烏帽子会賞(数年前より、文武の面ですぐれた成績を残した学生さんを表彰)の発表並びに表彰が、

小川 厚専務理事からあり、以下の 2 組が受賞されました。

竹山 文徳君。M3。平成 21 年度九州山口医科学生体育大会・柔道部門・中量級・個人優勝

サッカー愛好会

第 60 回西日本医科学生

総合体育大会・サッカー部門・優勝

皆さん、おめでとうございます。

今回は、12 回生と 22 回生が、当番幹事をさせていただきました。10 年先輩の 2 回生の皆様には、各段階で??大変に御世話になり支えていただきました。この場をかりて、もう一度感謝申し上げます。ありがとうございました。

これを機に、同窓会本部でも、「当番幹事だけでなく、前後 10 年の学年の会」という概念で進めていく、と聞いています。

我々、12 回生から平成の卒業になります。当番幹事制が始まり 10 年を超えました。

同窓会・同窓会総会が、益々発展していかれる事を祈念しております。

最後に、総会に関しての、12 回生・22 回生への会計報告をいたします。

会 計 報 告

収 入		支 出	
寄付 12 回生	2,250,000	事務用品、通信費	79,062
寄付 22 回生	250,000	拡大準備会	27,860
寄付 2 回生	252,319	講演会費用	72,235
学生会費補助	55,000	二次会費用	123,000
参加費	680,000	記念行事補助 (12 回生)	47,943
利息	300	会場費	1,625,855
計	3,487,619	振込手数料	105
		記念品代	450,000
		22 回生補助	250,000
		75 周年寄付	700,000
		第 38 回総会用準備金	114,559
		計	3,487,619

上記の通り、報告いたします。

平成 21 年 9 月 3 日 会計 平 田 和 彦 印

監査の結果、違算なく収支仕訳も適切であると認める。

平成 21 年 9 月 5 日 監事 道 永 成 印



総会の様子



総会会長 田中達朗先生



講演会講師 南俊秀先生



研究奨励賞表彰



懇親会歓談中



烏帽子会賞受章者紹介



特別会員の先生方



輪になって校歌斉唱



万歳三唱



幹事の先生方 記念写真

研究奨励賞

平成 21 年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 大慈弥 裕 之 (形成外科学教授・3 回生)

平成 21 年度の烏帽子会研究奨励賞には 6 名の応募があり、今年 6 月 10 日に 10 人の選考委員からなる研究奨励賞審査委員会で 3 時間にわたる審査が行われた。その結果、深見達弥先生(福大 22 回卒、福岡大学大学院産婦人科所属)、木谷嘉博先生(福大 25 回卒、福岡大学病院臨床検査部所属)、光武良晃先生(福大 25 回卒、福岡大学病院循環器内科所属)、川上豪仁先生(福大 22 回卒、国立病院機構福岡東医療センター呼吸器外科所属)の四人が優秀賞に選出された。深見先生の研究課題は、「胎児期の栄養状態が胎児脂肪細胞に影響を与え疾病発症をプログラムする機序の基礎的研究」である。以下三名は発表論文に対するものである。木谷先生の論文題名は、「合成高比重リポ蛋白の心筋梗塞後リモデリングに対する抑制効果の検討とその分子機序の

解明」である。光武先生の論文は「HDL-associated factors provide additional prognostic information for coronary artery disease as determined by multi-detector row computed tomography」、川上先生は「Small cluster invasion: a possible link between micropapillary pattern and lymph node metastasis in pT1 lung adenocarcinoma」である。いずれも一流誌に掲載されている。

重森裕先生(福大 24 回卒、日本大学医学部脳神経外科所属)と竹本光一郎先生(福大 26 回卒、福岡大学病院脳神経外科所属)の二名には激励賞が与えられた。

来年度も今年同様、質の高い論文および研究計画を学内外から数多くご応募いただきたい。



平成 21 年度授賞論文抄録

胎児期の栄養状態が胎児脂肪細胞に影響を与え疾病発症をプログラムする機序の基礎的検討 [計画]

福岡大学大学院産婦人科 助手 深見達弥 (22 回生)

低出生体重児が成人期の生活習慣病の発症と関係すると報告した「Baker の生活習慣病胎児起源仮説」は日本や欧米諸国で肥満と他の循環器疾患危険因子の発生率が顕著に増加していることと重要な関連を認めている。近年本邦では低出生体重児の割合が増加しており、これらの児が将来高率に生活習慣病を発症するとすれば公衆衛生の視点からも大きな社会問題となる。この胎児疾病プログラミングの具体的な機序は未だほとんど解明されておらず、その有効な予防方法は未だ確立されていない。脂肪細胞は重要な内分泌臓器として認識されており、脂

肪細胞の分化、過栄養と脂質合成が肥満を発症させるので、この部分を研究することは重要である。本研究では、妊娠によってプログラムされる肥満発症ラットモデルを使用し妊娠中の環境が脂肪細胞における遺伝子発現と以降の機能変化における影響を明らかにし、生活習慣病の超早期からの介入による生活習慣病の予防治療戦略を構築していくことが目的である。

この度は研究奨励賞受賞を受賞し大変光栄です。今後も研究を続け今回の受賞を生かしていきたいと思っています。

合成高比重リポ蛋白の心筋梗塞後リモデリングに対する抑制効果の検討とその分子機序の解明 (論文)

福岡大学病院神経内科・健康管理科 助手 木谷嘉博 (25 回生)

木谷嘉博¹, 三浦伸一郎¹, 今泉聡¹, 上原吉就¹, 松尾佳野¹, 阿部智美¹, 自見至郎², 浦田秀則³, Kerry-Anne Rye⁴, 朔啓二郎¹.

¹福岡大学医学部 心臓・血管内科学講座, ²福岡大学医学部 病理学, ³福岡大学筑紫病院循環器科, ⁴Lipid Research Group, Heart Research Institute.

近年、合成 HDL (rHDL) は動脈硬化治療に応用されており、HDL と同様の多面的効果が推定されている。今回我々は、急性心筋梗塞 (MI) ラットモデルを作製し、合成 HDL の左室リモデリング抑制効果を中心に評価を行った。Wistar ラットを Sham-operated 群、MI 群、rHDL 群 (ApoA-I として 6mg/kg を 1 週間に 1 回、4 週間投与) に分割して検討したところ、4 週後の心エコー所見にて、rHDL 群は MI 群と比較して、有意な駆出率改善、左室収縮末期径と左室拡張末期径の減少傾向を認めた。病理標本では、rHDL 群にて線維化領域の有意な

減少を認めた。さらに、各群の左室のシグナル蛋白においては、phospho-ERK の発現が rHDL 群で有意に増加していた。In vitro では、rHDL が心筋細胞の cell growth arrest を阻害し、ERK 阻害薬にてその効果は消失した。以上より、心筋梗塞発症後早期の rHDL 投与は、ERK の経路を介した cell growth arrest 抑制により、左室の線維化抑制と収縮能改善をもたらし、左室リモデリングを抑制することが示唆された。rHDL の多面的効果は、今後、臨床的に心血管疾患の新たな治療手段として期待される。

HDL-associated factors provide additional prognostic information for coronary artery disease as determined by multi-detector row computed tomography (論文)

福岡大学病院循環器内科 助手 光 武 良 晃 (25 回生)

【目的】

近年、ライフスタイルの欧米化により、動脈硬化性疾患は高齢者のみならず若年者にも発生が認められるようになった。多くの報告により低 HDL-C 血症、高 LDL-C 血症などの脂質異常症と冠動脈疾患 (CAD) との関連が示されている。また、また、他の脂質因子、炎症マーカー、血小板活性化因子と CAD との関連も報告されている。

今回我々は、マルチスライス CT (MDCT) を用いて CAD の有無、重症度を評価し、詳細な脂質因子との関連性について検討を行った。

【方法】

対象は CAD を疑われ、MDCT による冠動脈造影を行った連続 195 例 (男性 107 例、女性 88 例、平均年齢 64 ± 12 歳)。冠動脈狭窄度の評価は 50% を超える狭窄を有意狭窄とし、病変枝数 (VD) 及び石灰化スコアの測定を行った。

従来からの冠危険因子に加え、アポリポ蛋白 (apo) B, C3, E, remnant-like particle cholesterol (RLP-

C)、free cholesterol (FC)、phospholipid (PL)、血小板活性化因子 (PAF-AH)、及び高感度 CRP の測定を行った。MDCT を用いて評価した CAD の重症度とこれらの因子との関連性を検討し、CAD 診断における有用性について検討を行った。

【結果】

HDL 結合 (H-) PAF-AH は糖尿病群において有意に低値になり、また石灰化スコアが高値になると有意に低くなるトレンドを認めた。多変量解析にて、石灰化スコアに寄与する因子は年齢と、H-PAF-AH のみであった。MDCT にて評価した VD と有意に関連のある因子は高血圧、HDL-C、H-HDL、H-PL、H-FC、及び RLP-C であった。これらの因子を説明変数として多変量解析を行ったところ、HDL-C が VD に独立して寄与する因子であった。

【結語】

HDL-C や H-PAF-AH 等の HDL 結合因子の測定は、冠動脈疾患や冠動脈石灰化の重症度診断において有用な情報になり得る。

Small cluster invasion: a possible link between micropapillary pattern and lymph node metastasis in pT1 lung adenocarcinoma (論文)

福岡大学病院呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 助教 川 上 豪 仁 (22 回生)

原発性肺腺癌は早期症例であっても、その予後は多彩である。Micropapillary pattern (MPP) は、線維血管性芯を持たない癌細胞の小乳頭状構造で、他臓器において、MPP 陽性癌は高頻度にリンパ節転移をきたし、予後が悪いと報告され、近年注目されている。我々は既発表の研究においては、MPP の予後不良因子としての有用性、肺腺癌の浸潤形態としての微小集塊浸潤 (small cluster invasion; SCI) との関係について検討した。今回の論文においては、原発性肺腺癌病理学的 T1 症例 146 例を対象とし、

MPP, SCI, lymphatic involvement (LI)、vascular involvement (VI) の有無とリンパ節転移の有無について検討した。SCI は肺腺癌の癒痕組織内で認められる微小な集塊状浸潤と定義した。

SCI は MPP 陰性群と比較して MPP 陽性群でより高率に認められ、LI 及びリンパ節転移とも有意な相関を示した。LI の存在もリンパ節転移と有意に相関した。SCI 陽性群の 5 生率は 70% で、陰性群の 91% と比較して、より予後不良であった。形態学的にも、SCI を示す癌細胞集塊は、MPP を形成する癌細胞

と類似していた。MPPを示す癌細胞集塊は、表面をMUC-1にて覆われるという特徴を有するが、SCIを示す癌細胞集塊も、リンパ管内に浸潤した癌細胞集塊も同様の発現様式を呈した。MPP症例における高率なリンパ節転移はよく知られているが、その機

序に関する論文は未だに無い。本論文は、MPP陽性肺腺癌が高率にSCIという浸潤形態をとって、リンパ管侵襲およびリンパ節転移に至ることを初めて示唆した意義ある論文だと考えている。

平成22年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者（本会会費完納を条件とする）

研究課題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

申請方法：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成22年4月30日（金）

賞状・賞金：奨励賞（優秀論文賞を含む）5件以内

発表及び表彰：平成22年7月、第29回同窓会総会席上

そ の 他：①受賞者は研究報告書を提出する事。

計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出すること。

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員・学生会員の方もご応募下さい。

福岡大学医学部同窓会

在外研究援助金募集

対 象：正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032
FAX 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間10件以内

発 表：その都度、同窓会会報に掲載

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

※準会員・学生会員の方もご応募下さい。

平成 21 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 21 年 4 月 25 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員:実出席 44、委任出席 37、
欠席 21
支部長(再掲):出席 11、欠席 4

◇経過報告

〈高木会長〉

皆さんこんにちは。今年の卒業生を含めて同窓生は 3322 名となりました。同窓会が出来て 35 年経ちますがその内 40 名の仲間がお亡くなりになっています。

子女の入試合格者は 12 人(うち推薦 1 人)でした。

医師国家試験は 100% 合格を目標に頑張りましたが残念ながら 94% に止まりました。しかし 106 名中 100 人の合格者という 3 桁の人数になり、九州では 4 番目の成績でした。

最後に、ご承知のとおり福岡大学では創立 75 周年を記念して寄付活動が行われています。来年の 3 月で寄付活動は終わりますのでこの評議員会がその期間中の最後の評議員会という事になります。烏帽子会 27 年の歴史の中で本格的な初めての寄付活動です。その実績は福大の中に医学部を位置付け、医学部卒業生の母校愛を測る尺度としても印象づけることになります。また、9 学部の中における医学部の存在や同窓会の活動、学内にいる同窓生スタッフがお互いの背中を押すチャンスとなるとも考えました。最初 3 億円という目標をたてて活動しましたがなかなか難しい状況となり、今は何とか 1 億円を目論んでいます。これから寄付をされる方、既に寄付したけれどもうちょっとできるという方にもう一度声をかけて、医学部卒業生のたくさんの人が寄付活動に参加したというエビデンス、そういうものを残していきたい、それが医学部の歴史の 1 ページに刻まれるのだと思います。今、烏帽子会は大学と一緒にあって良い方向に進みつつあることを申し添えて経過報告を終わります。

(注:同窓会発足は学部より 10 年遅れ。1982 年 7 月 3 日)

◇議題 1. 平成 20 年度収入支出決算見込み

〈池田事務局長説明〉

〔附〕会費納入状況 〈松本専務理事説明〉

賛成多数により承認

◇議題 2. 平成 20 年度事業報告及び

平成 21 年度事業計画(案)について

〈田野常任理事全体説明〉

①会報の発行

今年より A4 版に変更しました。学生の保護者に対して同窓会の活動内容を知っていただく目的で、従来の秋号に加えて春号もお送りします。会報は医学部病院同窓会の情報交換のテーブルにする目的で各教室施設紹介を掲載します。今まで医局紹介として 2 カ所ずつ掲載していましたが全部紹介するために 14 年かかることになり、意味のない状態にありました。これからは出したい施設は毎号でも掲載し、自分の教室を皆さんに知っていただくために利用したり、情報交換のテーブルとして会報を育てて行きたいというのが一番大きな違いです。

②在外研究援助金(林)

同窓生で 1 年以上の外国への留学をされる方に申請書類に不備問題がなく出もとの推薦があり問題がなければ出しております。福大の卒業生できちんと会費を払っておられれば福大に在籍されてなくても結構です。

③学生対策説明(松永専務理事)

私の主な担当の国試激励会について説明します。6 月 12 日には国試激励会をモンレーで行う予定です。趣向を変えた昨年は沢山の 6 年生が参加して大いに盛り上がりました。クラス担任、国試対策委員(同窓生)も交えて激励を行う会にしております。

④国試対策夏期セミナー(松永専務理事)

関連して夏期セミナーの説明もいたします。今年も 7 月 24 日から 26 日まで 3 日間 6 年生の下位の学生 30 人程度を泊まり込みで福大のセミナーハウスを借りて行きます。昨年は内科系を中心としていましたが、学生の要望を聞きながら講義内容を決めて行きます。こちらも同窓会の援助で行っております。比較的効果があるように思います。

〈竹下専務理事〉

松永先生が説明された以外に新入生歓迎会、M4 激励会、M7 激励会があります。これに加えて M4 の夏休みに 5 人位海外へ一週間研修に行かせていただくことを昨年度から行っており、それに対しても同窓会からの援助をいただいています。今年も早速 6 人程行きたいとの学生がおり今その人選をしています。(今年はインフルエンザ流行のため中止となりました。)

昨年浅倉先生より卒業して国試に落ちている人へちゃんとしなないとけないのではないかとのご指摘がありました。よく考えて対応してきました。市内にいる人を集めて檄を飛

ばしたということと、携帯へ時々電話を入れました。それがよかったのか意識があがったのか8名中6名が合格しました。これがM7 激励会です。ただ市外の人も参加できるように研究が必要です。

今まで激励会をやってきましたが、やはりマンネリズムが出てきます。激励会の前には講演者に1時間程講演をしてから交歓会をします。今後も考えながら実施していこうと思います。講師の方の紹介などありましたらよろしくお願いたします。

〈前川専務理事〉

学生対策の中でM4 激励会を実施する意義としてCBT対策があります。CBTという授業から臨床へ入る前の試験があります。現在はその判定の結果で5年生へ進級させるかどうかはそれぞれの大学に任せられていますが、いずれこれが国家試験となり(ドイツが実施している)それに合格した者が進級して臨床実習に入れることとなります。その為にも学生を教育しCBTの合格率を上げる事が重要で学生を盛り上げる一助として激励会を実施しています。臨床に趣をおいた教育と国試に向けての教育の応援をいただいています。福大生に言われている入学した時のモチベーションは高いが、臨床に入る時にだんだん下がってしまい一番肝心な時に力を発揮出来ない状態を極力避ける為に、先生方をお願いしてモチベーションを上げる形を作ってもらっています。又一番重要な事は皆さんもお気づきの様に臨床研修制度が変わって卒業する学生の目が大学に向いていないことです。外に出て違う分野を見てみたいという考えから大学に目が向いていないので大学が困っています。教育の根底は大学にあると思いますし、母校に残って自分の研鑽と母校を盛り上げる為にも大学で研修を受けていただきたいと思っています。

⑤パニックマニュアルの発行

今年はパニックマニュアルの発行で現在準備をしています。外部出版社の発行になるやもしれません。

〈筑後支部・浅倉評議員〉

パニックマニュアルについては卒業後20年も経てば使う頻度も低いようです。配布する対象を削って他の事業にまわしてはどうでしょうか?

〈重田副会長〉

理事会でも同様の意見が出ています。事業そのものは折角伝統のある事業ですからやるべきだとは思っていますが、果たして全員に配布すべきかは理事会でも検討していきます。

〈福岡支部・馬渡評議員〉

尤もな意見だと思いますが、部数を減らしてコストダウンにならないければそのままでもいいかなと思います。久しぶり

にこういう先生がこういう事をやられているのかと解りますし、宣伝にもなるかもしれませんのでコストを考えられたら如何でしょうか?

〈松本専務理事〉

経済性を明確にご報告して皆さんに検討していただく場をつくりたいと思いますので用意させていただきます。

〈福岡支部・井上評議員〉

学生対策の参加率はどの位でしょうか?私も以前学生対策をやってまして同窓会の意義を伝えたり、様々な教えや啓蒙は学生の時しか絶対に無いと思っていました。卒業したら全員集まる事が難しくなります。参加はどうでしょうか?

〈竹下専務理事〉

90%以上の学生が集まります。ちょっと難しい点として留年生に欠席が多いことですね。問題は何も無いのですが、彼らは遠慮をしています。遠慮しないようにと声かけて来てもらっています。目標は100%の参加です。学生同士共有の時間や場を持つように作っていきたくと思っています。

〈松永専務理事〉

6年生の国試激励会にしても数年前は非常に出席率が悪かったです。学生中心にしないといけなだろうとの考えから、学生の集め方行事内容も学生のいいような形に変えました。それから参加が多くなりましたので役にたっていると思います。

〈松本専務理事〉

竹下先生は学生委員、松永先生は国試対策委員で学生と密着してますから、何時が4年生の都合が良いか、6年生の時間があるかわかっています。そのタイミングで彼らに日にちを選ばせて今の学生が何を求めているのか熟知しておられます。昨年は呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の岩崎教授に講演をお願いしたら学生は目をらんらんと輝かせて聞き入っています。その後飲み会をしますが彼ら好みの飲み会にしています。僕らが上から物言うことをやめて学生主体の会をすると人は集まるし、とても雰囲気がいいです。何よりも学内の教授が増えて学生の気持ち解るようになったので我々はそれにサポートするだけでいいような姿に移り変わっているように思います。

拍手をもって承認

◇議題3. 平成21年度収入支出予算(案)

池田事務局長説明 承認

◇議題4. 決算評議員会省略の件

重田議長説明 承認

◇議題5. 福岡大学創立75周年記念寄付金募集並びに福岡大学医学部同窓会の応募について

〈重田副会長〉

資料には75周年募金比較表と会報46号に掲載します朔先生の文章です。総額について理事会で何度もディスカッションいたしました。出来れば現在の状況からみて総額を1億にしたいという意見が学内外から出ています。現在は5900万円ですので残りの1年で後4100万円いけるかどうか、そして最終的には不足分を同窓会本部より補填したいという提案です。もう1つの提案は、医学部OB応募者数の全体数に対するパーセンテージが非常に大事で、出来れば20%~25%の数字を上げたいと考えています。パーセンテージを上げる方法についてもご討論をお願いします。資料は支部の数字と卒業回毎の数字です。回毎を見ると合計300万以上寄付している卒業回は11回生までのようです。支部においては朝倉支部と大分支部が20%を超えています。まだまだ全体のパーセンテージが低い様です。募金について学内のことですから林先生よりお願いと意義についてお話しをお願いします

〈林副会長〉

募金に関しまして非常に解りにくいところがあります。どちらかというと募金については同窓会等が主体となって活動をする大学が多い様です。特に国公立ではそうです。福大は私立ですし75周年ということで大学が主体となって活動する形式となっています。大学の75周年に丁度病院の増設と35周年が一緒になったことから、医学部内でも朔教授が担当となり、出来る限りの募金をして新診療棟の中に同窓会のスペースを作りたいということでやってきています。何故医学部は寄付に?ということですが、他学部と医学部は違います。他学部では母校は卒業すると懐かしく思う場所であり、単に何か良いことがあれば嬉しいという場所でしょうが、医学部の場合は医師という職業を通じて生涯縁の切れない運命的な関係で結ばれています。薬学部は同窓の団結が強く4000万円の浄財を集めております。医学部の場合どんなことがあってもこれを下回ってはいけなないと考えます。更に出来れば医学部は各学部のトップに立つべきだと思います。医学部の場合、学内と学外とが助け合って伸びていかなければならないという、他学部とは一寸違う特殊な学部だということは皆さんおわかりだと思います。出来れば皆さんのご協力の度合いと医学部同窓と学部の関係の強さをその金額で示して戴く事が第1のポイントです。従いまして本来であれば3億でも4億でもと考えることですが、まずは1億の浄財を集めたいということです。

〈重田副会長〉

学内の盛り上がりは今一つのような状況もあります。内部の意気込み等は我々だけで話すといいのですが、福岡大学本体の医学部に対してのリアクションが薄いようです。

反応が鈍いです。医学部が吠えたって有信会は10倍程おりますので医学部が数字を上げててもなかなか認められないという雰囲気がありました。数字が出ますと募金事務局がびっくりしています。さすが医学部は違うとういうのが事務方には解ると思うのです。それで出てきた資料が今お見せしているものです。朔先生から我慢して金額を出せば何か出るからといわれ、我慢した結果やっと認め始めたというのが現状です。大きな動きが出ているようです。それはどういうことかと言うと6月に3回目の趣意書を出しますが、副学長、病院長、同窓会長3名の連名の趣意書が送られます。医学部を認める内容がでるのではないかと期待しています。もう一踏ん張り頑張ろうという雰囲気が病院内、学部内に出てきているのは事実です。そこは林先生いかがですか?

〈林副会長〉

それは当然あります。やっここまでの額が出たことが解ったから話が変わりました。一時は学部毎の金額を出してはいけなとの話もありました。そういうことをする必要がないと。学部毎の募金数を出そうという所までこぎつけて出してみたらこういう事です。かつて薬学部が70周年の時の4000万円は各学部単位の寄付では福岡大学始まって以来最高額を集めたわけです。新しい校舎を建てる一部に使われました。薬学部は福大では一番だとの話でしたがそれを簡単に一蹴しております。医学部の%が出る度に引き合いに出されるのが薬学部の国家試験合格の%です。大学新聞ではいつも2つ比較されています。医学部は82%、薬学部は96%と云うように掲載されます。つまらんとするかもしませんが、これは非常に大きいです。偶然でしょうが70周年の後薬学部が福大始まって以来の初めての学部長が誕生しました。その方がそのまま副学長に就任しました。多分工学部はそれに随分遅れるだろうと言われてますし、人文学部にいたっては何時になるかわからんと。望みがあるとしたらスポーツ科学部ではないかと言われてる位です。多分1億円というのは本学始まって以来の寄付です。この衝撃は大きいと思います。正直言って学内にいるとかえって卒業生だからと言って得することは何もありません。損することが多く、一度そういうの見せてやりたいと本音を言うところなんです。

〈重田副会長〉

この寄付の本体はアネックスホールです。同窓会館的なホールに充てたいということで、当初6億円の事業費のうち、半分の3億円を募金目標にしていました。しかし一寸無理だろうという事で、今では目標額が1億円まで下げられています。問題はそのホールの名称や使い方の問題でいろいろディスカッションがされています。最終的にどんな

使い方をするか決まっていますが、我々としては副学長との口約束ではありますが、同窓会館的なものに使いたいと言うことでした。しかし蓋を開けてみたらそのようなことは一切認められていない。何故同窓会のホールなのかから始まり、理解が示されない中で朔先生が非常に頑張られてその名称が最終的に同窓会ラウンジと決まりました。このことは朔先生の頑張りだろうと思います。同窓会的な事に使えるという形がなんとか出来つつあるという事です。もう1つは大口の寄付をして戴いた方々の銘板の問題です。募金事務局所定の銘板は作られますが、そのことと我々同窓会が独自に考えている銘板とは全く噛み合わないようです。しかしそのことについてもアネックスホールが出来て同窓会的な使用が決まったら、その流れのなかで医学部同窓会としての銘板を考えようと朔先生は頑張っておられます。福岡大学の中でこのような意義を伝えていくことはなかなか容易なことではありません。林先生が言われたように次の時代の流れの中で目処をつけるより他は無さそうです。朔先生を筆頭に次の学部長病院長が出るのも間違いのないと思います。それが我々の一つの望みでもあります。こういうもので弾みをつけて何とか1億円をどんと払い込んで勢いづけにしてあげられたらと思います。

〈佐世保支部・久保評議員〉

有信会同窓会館というのはあるんですか?烏帽子ホールと名前を付けようとしているのは医学部同窓会館のイメージですか?私は佐世保の有信会(八日会)に出ています。他の学部の大先輩が沢山おられますが寄付の話題もないです。他の学部は一生懸命してないということですか?

〈林副会長〉

東から行くと北大、東北大、東大、名古屋大、京大、九大は医学部が同窓会館を持っています。全体の同窓会館を持っているのが東大と京大で他は持ってないです。慶応でも医学部が同窓会館を持っています。医学部は特殊な位置にあるようです。

〈北九州支部・坂本支部長〉

僕も10年前から北九州有信会副支部長しております。75周年寄付の話題が出ますが渋いです。個人で3千円は少ないのでまとめて有信会で5万円か10万円はどうだろうかという話です。医学部の考えを話すとびっくりされます。お金があるから寄付して当たり前という意見もあります。そのような意見には僕たちは目的があってやっていますと話しています。僕らの年代になると人生の証として残したいものがあります。それと同じでこの75周年記念として新病棟の話が入って来たので、それは残す価値が十分にあると判断しています。何故かというは今学内にられる諸先生方、卒業生、僕らの子弟かもしれない孫かもしれない人達が、

新病棟で気持ちを持って僕らの集めた浄財で一生懸命勉強して素晴らしい研究をして欲しいとの願いがあります。そういう気持ちを持ち続けるように他の学部より寄付金額が大きいですから、朔先生だけではなくて学内には何人かの教授がおられますから全員一致で学内がしっかりしていかないとまず盛り上がりません。それから支部と回との表がありますが、支部の中で寄付した名前をだすのもいいのではないかと思います。金額を出すのはどうかと思いますが、大ざっぱな数字をだしてもらえれば意識付けになるのではないかと思います。

〈重田副会長〉

2年間の封印を破って春の会報には寄付された方の名前、学年等を全部載せさせていただきます。それを見て趣意書も届きますので拍車がかかるのではないかと思います。今年の春、秋号、来年の春号には最終的な数字が出ると思います。3段階で支部学年の表、と寄付された方の名前を載せていただきますのでご承認をお願いします。

〈筑後支部・浅倉評議員〉

県内はやはり30万でしょうか?金額を下げてくださいと我々も言いやすいです。

〈重田副会長〉

変更はありませんが、30万円の枠をとった趣意書を今度出そうかと思っています。名前を出すことも含めてパーセンテージを上げる事に主眼を置きたいと思っています。30万円の枠を外す訳にはいかないですが、1万円でもよろしいのでお願いしますとの趣意書を作って送ると考えていただいて良いと思います。

〈筑紫支部・帆足評議員〉

資料を見ると学内にいる人達の盛り上がりがないのではないかと見えます。学内の若い人達は知ってるんですか?先輩達が啓蒙しているのでしょうか?額は少なくとも若い人達の人数が増えればもっと盛り上がるのではないと思うのですが?

〈林副会長〉

確かに臨床研修医等は給料はいいのですが、帰属意識がない。1年目、2年目は2割程しか残っていません。帰属意識をどうやって維持するか大変な問題です。朔先生と相談して、学内でローテーションで回っているけど何処にも所属していない人に文書で出すとか集めて話すとか、あるいは各教室に同窓生がおりますのでそういう人達を集めてもっと他の支部の先生方に恥ずかしくない数字を出すように努力いたします。夏の総会位までにはそういう試みをしたしたいと思います。それを約束させていただくことでよろしいでしょうか?

〈筑紫支部・帆足評議員〉

364人もいるということなので少しでも集まり、%が上がれば周りも若い人が払いようけん頑張らないといかんと多分思うと思いますのでよろしく願いいたします。

〈林副会長〉

今学内は7%しかありません。若い人も多し、生活も大変だろうからと言うこともあります。寄付した人数とパーセンテージが低いと示しがつかないのは先生が仰る通りだと思います。早急に出来る限りの努力をして成績を示したいと思います。

〈重田副会長〉

実を言うとその問題が一番大きな事で、我々は学年と支部単位で表を作っていますが、他大学を見ると一番大きな縛りは何かと言うと同門医局です。寄付が始まると最終的な締め付けは医局体制の中の同門会で強いものがあります。我々の大学で一番弱いのはそこで、歴史と伝統が無いところは同門会を含めて医局体制が弱いから、教授が若い人へ払いなさいと言えない雰囲気もあります。医学部一丸となって動くとなれば、そういう縛りも出てくるかなと待てるんですけどね。

〈林副会長〉

学内で寄付している所は朔先生、廣瀬先生の医局です。いかんせん松永先生や竹下先生の所に医局員が少ないから出してないが、居たら出させられるという状態です。若い先生方には働きかけて、新病棟が出来て一番利徳を得るのは大学の人間ですからそれが率先して出さないということは無いはず。額の面ではご辛抱いただくかもしれませんが、必ず参加させるという形で出来る限りの努力をすることを約束させていただきます。

〈北九州支部・穴井評議員〉

学内の人達の対応もそうだと思いますが、学外の人間に対しても教室からの働きかけは非常に強いと思います。例えば教室が学会をする時は殆どの人が寄付金を出します。それと同じように病院を作る訳ですから学内から教室での働きかけを我々同窓会にもプッシュしていただければかなり数字が上がると思います。そういうことは実際無理でしょうか？

〈重田副会長〉

大事なことですね、それは。

〈佐世保支部・星子支部長〉

同窓会が一生懸命国家試験の対策に費用を大概出しています。毎年500万円程出しています。その人達がたった3人から5人位ずつしか寄付していません。何のために同窓会が国家試験のために努力してお医者さんにしてあげたのか意味がわからない!こんなことならそのお金を寄付に回したらいいのではないかと言いたくなるほど、この人達

は同窓会に対してどのように考えているんだろうかと思いません。更にもっと言えば何で卒業してから10年間は同窓会費を取らないのが不思議じゃないかと僕は思います。せめて1000円でもいいから同窓会にお世話になったんじゃないかと、僕たちの頃にはあったかどうか知らないけど、一生懸命されている先生方は大変だと思います。寄付の状況を見ると自分たちが飲んで食べて国家試験受けた後はしらんという感じを受けます。僕たちが死んでしまったら同窓会は無くなるのではないかという感じですね。同窓会は大事なんだと言うことを若い人達に教えないといけないし、いくら帰属意識がなくて2割か3割しか大学に残らなくてもまさか大学が福岡の人しか入学させない訳ではないでしょうから、これだけお世話になっているのに1円も出さないという状況はおかしいと思います。1万円でも5千円でも出させないといけないと思います。

〈林副会長〉

子育てと一緒に国家試験対策はなるべく成績の悪い子を対象としています。そういう人を一生懸命集めて、出てこない人には松永先生、竹下先生が一人一人に電話をかけてでも集めてやっています。そういう人達に後輩の教育にボランティアで加勢してくれないかと頼むことがあります。答えはかなりの人が断ってきます。無駄な事をしてるのではないかと思う瞬間です。かえって我々に手間かけず、すいすい行った人達が「いいです。後輩の為なら」と協力してくれるのを見ると一体我々は何をしたんだろうかと思うこともあります。ただ中にはずーと後になって年賀状をくれて「国家試験の時は大変お世話になりました。まともな医者になれたのも先生方のおかげです」と書かれていたりします。教育は無駄の固まりです。たくさんの種をまいてたくさんの水をやってたまに芽が出たら良かったと思う位です。どうでしょうか?竹下先生。本当にそんなことして、一生懸命働いてかき集めた分をざるに水を汲んでるんじゃないかと言われるたら本当にそうなんです。

〈竹下専務理事〉

林先生は過激なところがありますが、こういう意識は卒業してもすぐには多分解らないんだと思います。それをいかに醸し出すかが僕らの仕事じゃないかと思っています。同窓会が大きくなるというか、皆さんがまとまっていた形形でやっていくのが本当のところだと思います。それにおいて一番大切なのはチームワークだろうと思います。

〈林副会長〉

自分が親になる年齢の頃になり、色々な経験をした末に、人が先輩が自分のために何かをしてくれたことはありがたいことなんだと解る人が増えてくるようです。その時になってこれが生きてくるのではないかと思ってやらないといけな

い仕事なんじゃないかなと思います。それを期待して頑張っていると思います。

〈松本専務理事〉

年会費の生い立ちについて少しお話しします。初めは10万円の永久会費を集めました。それでは事業が成り立たないし、集まりも悪かったです。その後新しい体制になりました。その時に学生さんからも会費をいただいています。6年間で10万円学生会費として親御さんが払っています。ですから彼らの為に6年間で600万円使って良いわけです。本来はそのお金は彼らのものですから。僕らが研修医の頃は月3万円くらいの給料でしたから同窓会費なんて払えなかったし同窓会が出来たのも数年してからで年会費を払い始めたのも十数年経ってからです。実を言うとながは最初の頃は一銭も払ってないんです。今の若い先生方におまえ達は払ってないぞというのはどうでしょうか？僕らも払ってないわけですから。今の学生さん達は学生会費も払っています。一番損しているのは10回生以下の方々に、永久会費も払ったし、年会費も急に払えと言いだしたし、何で僕らは二重苦なんだと思われる世代の方もおられます。損をしている世代も実はいます。10年目になると少し立ち立って同窓会の方にも顔を向けるだろう若い世代には「総会のお手伝いをする世代になった時が大人なんだよ、その時から年会費を1万円払って下さい。但し卒業後10年間の事はゼロにします。それは学生会費を10万円払っているからです」と説明してきました。皆さんには過去にもご理解下さいと一度お話ししたことがあります。その点をご理解していただきたいのが1つです。もう1つについてもお話しさせて下さい。大学にどうして寄付をしないといけないのか、どうして医学部だけ特殊なのかということ。それについては僕も考えました。医学部におられる先生方も医師として仕事をされています。卒業した我々も医師なんです。単一の職業です。福大の評判は即開業している僕たちの評判になっていしまし開業医が悪さをすればあなたたちの先輩ですか？と言われます。連帯感の非常に強い統一性のある集団なんです。だからこそ大学が病院を建てる時は少しでも綺麗な病院を建てて欲しいと願うのがどうしても仕方ない血の繋がりがだろうと僕は思います。どうして烏帽子会館とか烏帽子ホールとか同窓会ホールとかの名前になるのかと言いますと今回の75周年の事業には4つの柱がありまして病院はその1つです。皆さんの募金の中にチェック項目がありチェックしたところに募金が行くようになっていきます。おそらくここにおられる方は病院にチェックされたでしょうから病院の方の金額に上積みされていきます。もしこれが今3億だったらあのホールは烏帽子会館と名前を付けても文句いわれなかったかもしれません。でも今のところ6千

万円だから烏帽子ホールが烏帽子ラウンジでどうかと押し合いの中でそういう状況になっています。最初3億と言うのを目標にしましたが、最初は建前ですのでこれくらいは思っておりましたが、実は同窓会は60才～80才の方が一番寄付をされますね。後20・30年しないと成熟した同窓会にはならないですね。あと20年の200人がものすごくお金を払うそうです。だから6千万円払っていただきたいのは財務担当理事として心から皆さんに頭を下げたいです。ただ、是非1億にしてりっぱな寄付だと認めさせて欲しいと思います。5万円以上ならばどういう形にせよ銅板に載るだろうと思います。是非ご理解をいただきよろしくお願ひいたします。来年の3月で募集が終わります。その時に1億円の目標に達しなかった時は本部に蓄えがありますので不足分を足して1億にして寄付をさせていただきたいと、ここで出来ましたらご了解をいただきたいと思いますがいかがでしょうか？

〈重田副会長〉

最後に同窓会会長よりこの事業に対してのご希望とお願ひ、また最後の説明をお願いしたいと思います。

〈高木会長〉

ディスカッションありがとうございました。烏帽子会という同窓会が団結し大学と一つになってやっている今回の事業は、福岡大学の中でも画期的な事業遂行の形だと思います。同窓会と大学の学部とが一番理想的な形を形成し、新しい絆で結ばれ、新しい歴史を作ろうとしています。その中で我々が目標とする1億という纏まった寄付の中に我々3322人の気持ちがいっしょにこもっています。そのお金が生きたお金になって、新しい病院の中でまた我々の同級生、後輩達を育て、さらに医学部を成長させ、やがては第1級の総合大学の医学部に発展させて行くでしょう。そのうち卒業生から学部長、できれば学長まで行くような人材が育つ土壌も生まれて来るでしょう。教授の数もようやく二桁になろうとしています。われわれはその尖兵として先陣を承け歴史の中に大きな足跡を残すために、皆さんと力を結集して目的達成に進みたいと思います。皆さん。支部に帰られたら支部の方々に是非協力して戴くように働きかけて下さい。1万円でも3万円でも5万円でも金額は問いません。来年の寄付活動が終わるまで、悔いのないご活動をお願いします。

〈重田副会長〉

今の話でご理解いただけたと思います。了解事項が1つあります。募金の額を1億にしたいということでもし金額が達しない場合は同窓会の基金の中より補填して1億にすることを評議員会で承認されたということをご承認いただきたいと思ひます。拍手を持って承認された。

在外研究援助金受給者報告

在外研究報告

福岡大学病院循環器内科 助手 八 尋 英 二 (18 回生)

私、八尋英二は 2006 年 5 月 1 日より 2009 年 3 月 28 日迄の約 3 年間 University of Alabama at Birmingham(UAB)と Emory University という 2 つの違ったタイプ (1 つは State University そしてもう 1 つは Private University) の大学で Professor Ahsan Husain のもと研究させて頂き帰国致しましたので御報告させて頂きます。

最初の UAB は、アメリカ南部アラバマ州の割と新しい (創立: 1969 年) 州立大学です。アラバマ州は日本人にとって馴染みの無い州で大学のあるバーミングハムは州で一番大きな町なのですが UAB によって成り立っている町でこれと言った産業は全くありませんが南部らしくみんな陽気で優しく非常に住みやすい環境でした。(当初半年は、これも南部らしく信じられないような人種差別にもあいましたが... これも留学ならではの経験だと思います) 次の Emory も、日本ではあまり馴染みが無い大学と思いますが、オリンピックが開催されたジョージア州アトランタ (因に福岡市と姉妹都市です。) にあります。緑に囲まれた非常にきれいなキャンパスで UAB とは全く違った環境でした。

留学中、2 つの全く違った大学を経験できたのも非常に自分にとっては貴重な体験であったと思います。

研究の方ですが、私の目的はヒトキマーゼ (アンジオテンシン I I 産生酵素の 1 つ) を遺伝子操作によってマウスにノックインするつまりヒトキマーゼノックイ

ンマウスの作成でした。残念ながら、この留学期間に作成し日本にもって帰ってくる事は出来ませんでした。早ければ今年度中には福岡大学医学部に来るものと考えております。このマウスによりヒトキマーゼの生理学的、病態学的など様々な心血管疾患に及ぼす影響を詳細に検討する事が可能になります。

また、この研究内容とは全く違った研究も実は私たちの研究室では行っておりどちらかということこちらがメインであったのですが、それは、心筋再生医療です。この分野は循環器領域だけで無く医学会全体で現在非常に脚光を浴びている分野であります。この分野の考え方は今迄の心臓に対する内科的療法 (血行再還流療法、薬物療法) や外科的療法 (バイパス手術、心移植) などとは全く異なり弱ったもしくは死んだ心筋細胞を修復 (再生) するという全く新たな概念であり 2001 年の骨髄幹細胞が新しい心筋細胞を作るという報告後に研究の最前線へと押し出され臨床試験も行われるようになってきています。将来的には移植や薬物療法に頼らず細胞医療の時代が来る事を夢見ています。

今回の研究留学経験を生かして益々福岡大学の発展に尽力したいと思っております。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました福岡大学医学部心臓血管内科学朔啓二郎教授と福岡大学筑紫病院第 1 内科浦田秀則教授に心から厚く御礼申し上げます。

University of California, Los Angeles: Southern California 留学紀行

大分整形外科病院 森 下 雄一郎 (福大助手・20 回生)

アメリカ西海岸は Gold Rush の時代から 70' s にかけて最後の楽園として小説、音楽等にて謳われています。60' ~ 70' s Southern California Culture に憧れ夢見て 25 年、やっと少年の頃の夢を果たすことができました。研究をする為に LA へ行ったのではなく、LA に行く為に研究をしたという不純な動機でしたが、この 2 年間は私だけでなく我々家族の今後の人生に大きな影響を及ぼす事となりました。

2007 年 1 月 15 日から 2009 年 1 月 31 日まで、アメリカ合衆国、California 州 Los Angeles にある University of California, Los Angeles (UCLA) の Spine Research Laboratory に 2 年間所属し、貴重な体験をさせて頂きました。研究は、脊椎の動態 MRI 画像を用いての脊椎運動力学についての臨床研究と rhBMP-2 と新しい peptide 'BMP binding peptide (BBP)' を用いた rat の骨再生についての基

礎研究の2本立てでした。自由な雰囲気のあるlabで自分の好きな時に好きな研究ができるという恵まれた環境で、本当に自由にさせて頂きました。かつ、2年目からは初年度の実績から給料を貰えるようになり、labを牽引する立場として責任ある役割も無事果たす事ができました。

当然、一番の目的“Southern California Culture”もたっぷりと謳歌しました。しかし、最大の収穫は家族と共有できた十分な時間だったと実感しています。このような素晴らしい経験ができる環境を創って頂いた福岡大学医学部に心から感謝を申し上げます。

‘人生の春休み’は終わってしまいましたが、次の‘人生の夏休み’にむけてこれからガムシャラに働きます。そして、また夢の続きを、、、

業績

- The effects of the degenerative changes in the functional spinal unit on the kinematics of the cervical spine.
Morishita Y, Hida S, Miyazaki M, Hong SW, Zou J, Wei F, Naito M, Wang JC. Spine 2008 Mar 15;33(6):E178-82.
- Kinematic evaluation of the spine; a kinetic magnetic resonance imaging study.
Morishita Y, Hymanson HH, Miyazaki M, Zhang HH, He W, Wu G, Kong MH, Wang JC.
Journal of Orthopaedic Surgery 2008; 16(3): 348-50
- The relationship between the cervical spinal canal diameter and the pathological changes in the cervical spine.
Morishita Y, Naito M, Hymanson H, Miyazaki M, Wu G, Wang JC.
Eur Spine J. 2009 Jun;18(6):877-83.

- Enhanced effects of BMP-binding peptide combined with recombinant human BMP-2 on the healing of a rodent segmental femoral defect.
Morishita Y, Naito M, Miyazaki M, He W, Wu G, Wei F, Sintuu C, Hymanson H, Brochmann EJ, Murray SS, Wang JC.
J Orthop Res. 2009 Jul 28.
- The Kinematic Relationships of the Upper Cervical Spine.
Morishita Y, Falakassa J, Naito M, Hymanson HJ, Taghavi C, Wang JC.
Spine 2009: inpress



Denmark 留学報告

福岡大学消化器外科 助手 新屋 智志 (26 回生)



2007年12月から2009年3月までの15ヶ月間、北欧Denmarkの首都CopenhagenにあるRigshospitalet

(王立病院)に留学させて頂いた新屋智志(第26回生)です。Rigshospitaletは、Denmark王国唯一の肝移植施設であり、年間約40～50例前後の肝移植が実施されます。今回の留学では、ドナー手術からベンチ手術、肝移植までほとんど毎症例に参加する機会を頂き、確立されたシステムの下で脳死肝移植に直接携わることにより、日本とは異なる興味深いDenmarkの移植システムや医療事情を学ぶことができました。また助手としてだけでなく肝臓外科専門医の御指導下で、肝切除やドナー手術の執刀医として手術に参加させて頂いたり、肝移植に関する論文作成、またDenmark外科学会の100周年記念式典に参加させて頂いたりとどれをとっても自

分にとって貴重な経験をすることができました。

もちろん最初は、自分の母国語と全く違う言葉の中で仕事をするので如何に自分の語学力の無さを痛感せざるを得ませんでした。しかしながらデンマーク国民の多くの方が母国語であるデンマーク語とほぼ同レベルに英語を話すことができることやデンマーク人の親切で温かい国民性に助けられ、つたない英語とちょっとしたデンマーク語でなんとかデンマーク社会の一員にして頂く事ができました。

また医療の勉強のみならず留学生活で欠かせないのは、文化の勉強だと感じました。日本とは全く違うDenmarkの気候、言葉、歴史、食生活、習慣や考え方などに接することで今まで住んでいた日本との違いを感じつつ、実は意外と自分の国のことをよく知らないことにも気づくことができました。また幸いにも医療従事者のみならず、たくさんのデンマーク人の友人を得ることができたということは、私にとってかけがえのない財産となりました。

今後は、技術や知識のみならず自分が学んだことや感じたことを臨床の場でフィード・バックできるよう

に邁進したいと思っています。このDenmark留学は、私の今後の人生にとって何事にも代え難い貴重なものになることでしょ。

最後にこの素晴らしい留学の機会を与えてくださった山下裕一教授、そして福岡大学消化器外科とRigshospitaletの長い交流・友情、心強いバック・アップを頂いた福岡大学医学部同門会に深く感謝・お礼申しあげます。本当に有難うございました。



クリーブランド留学報告

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 川浪大治 (21回生)

私は2006年8月から3年間、アメリカのオハイオ州クリーブランドにありますCase Western Reserve大学(CWRU)に留学をさせていただきました。クリーブランドは五大湖のひとつエリー湖の南側に位置し、人口は50万人ほどです。福岡大学の多くの先輩方が留学されたクリーブランドクリニックのある街と言えば、馴染みやすいかもしれません。自然に恵まれ緑豊かなところですが、冬は厳しく気温が零下20度を下回ることもあります。私はCWRUにあるCase Cardiovascular Research Instituteでポストドクをさせていただきました。この研究所は、私のボスであるDr. Mukesh Jainをハーバード大学から所長に迎え2006年8月に新設されたばかりです。私は全く実験機器のない状態からラボの立ち上げを手伝うことになり、はじめの3か月は思うように研究を進めることができずフラストレーションのたまる毎日でした。しかしながら、立ち上げから関わったことは、ただ一人の日本人であった私が周囲に容易に溶け込むのに格好の機会であったと思います。その名前が示すようにこのラボの主なテーマは心血管疾患の基礎的な研究ですが、癌や代謝疾患も研究の対象として

おり、ポストドクも様々なバックグラウンドを持った人間が集り、いい意味でポストドク同士の競争が盛んで、活気に溢れたラボでした。私のように糖尿病・循環器の境界領域に興味を持っている者にとっては非常に恵まれた環境で勉強をすることができたと言えます。Dr. Jainは自他ともに大変厳しい研究者でしたが、新しい発想と効率的にプロジェクトを進める方法を常に追求めて努力を惜しまない姿勢は大いに学ぶところがありました。留学の成果を評価することは非常に難しいことだと思いますが、彼のように優れた医師、研究者そして指導者であるボスがどうやって物事を考えているのかを横から眺めることが出来ただけでも大いに留学の甲斐があったと考えています。また常に自分に刺激を与えてくれる多くの友人を作ることが出来たのも貴重な経験のひとつです。おかげさまで公私にわたり充実した3年間を送ることができました。最後に今回の留学に際し多大なご支援をいただいた烏帽子会をはじめ、かなえ医薬振興財団海外留学助成ならびにAmerican Heart Association Postdoctoral Fellowshipに感謝申し上げます。

教授就任挨拶

活性化した教室づくりを目指して

福岡大学医学部産婦人科学 主任教授 宮本新吾 (特別会員)



宮本新吾 教授 略歴

- 1983. 3 九州大学医学部医学科卒業
- 1983. 6 九州大学医学部附属病院 医員 研修医(産科婦人科)
- 1984. 4 新小倉病院医師(非常勤)(産婦人科)
- 1985. 4 松山赤十字病院医師(産婦人科)勤務
- 1986. 4 九州大学医学部研究生(婦人科学産科学)
- 1987. 9 福岡総合病院医師(産婦人科)
- 1987.12 九州大学生体防御医学附属病院助手(産科婦人科)
- 1993. 5 米国国立保健衛生研究所歯科学研究所客員研究員
- 1995. 5 米国国立保健衛生研究所歯科学研究所研究員
- 1996.10 国立病院九州がんセンター 医員(婦人科)
- 1998. 4 国立病院九州がんセンター 医長(婦人科)
- 2000. 5 九州大学医学部附属病院 助手(産科婦人科)
- 2001. 4 九州大学大学院医学研究院助手
- 2002.12 九州大学医学部附属病院 講師(助手講師)(産科婦人科)
- 2004. 4 福岡大学病院講師(産科婦人科)
- 2007. 4 福岡大学医学部准教授(生化学)
- 2009. 4 福岡大学病院産婦人科 主任教授

平成 21 年 4 月より福岡大学医学部産婦人科講座の主任教授に就任しました宮本新吾です。昭和 58 年に九州大学医学部を卒業後に、臨床研修を行いながら、臨床研修医から既に臨床研究を開始しました。当時の上司の助言から、「社会貢献できる医師、医学研究を臨床に還元できる医師」を目指してきました。種々の難局を乗り越えて、現在初心を貫徹しようとしています。もちろん、“運”も味方しています。さて、私を手掛けてきた医学研究は、卵巣がん標的治療薬の開発というものです。このがん標的治療薬の開発は、アカデミア発としては国内で初めてで、上皮系増殖因子を標的にした世界で初めての治療薬であることや医師主導型治験という形式が本邦で初めてであることから、国内はもとより福岡大学でも高い評価を受けてまいりました。したがって、この研究成果を軸にして、アカデミアとはどうあるべきかを常に意識して、研究心・向上心を持ち続ける教室づくりを行いたいと考えています。

福岡大学医学部産婦人科講座での診療は、母体・胎児治療を行う周産期領域、悪性腫瘍治療を中心とした婦人科領域、更年期・不妊を中心とした内分泌領域から構成されます。まず、当教室は福岡県総合周産期センターとしての指定を受け、今後は北部九州領域の周産期医療を当院小児科・小児外科とともに担わなければなりません。このような社会背景から、母体・胎児治療を行う周産期領域における抱負は、病院内外に当教室員の診療努力を十分に訴えていく必要があるとともに、行政や病院からの人的・資金的助成を仰いで他の総合周産期センターや地域周産期センター、最終的には開業されている医院までを IT 化してネットワークで結び「安心・安全」の診療体制の確立を目指していくことです。平成 21 年 1 月より、体制づくりの準備を開始し、目標達成への大きな一歩を踏み出すことができています。一方、婦人科領域では、現在実施中の「新たな卵巣がん治療薬の開発」を終了させ、第二相臨床試験(治験)を開始することを目指しています。したがって、婦人科領域における抱負は、EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた診療を行うことはもとより、我々自ら EBM を作成して世界に発信していくことです。さらに、内分泌領域における抱負は、骨粗鬆症・子宮内膜症への内科的な保存治療あるいは腹腔鏡を用いた非侵襲的手術加療を多くの教室員が経験できる体制をつくることです。

私は、上記に示した研究・診療・教育というアカデミアが行うべき業務を、“身の丈”にあった内容で、確実に一步一步進めていく教室を作ります。

教授就任挨拶

福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学 教授 柳 瀬 敏 彦 (特別会員)



柳 瀬 敏 彦 教授 略歴

S55年 九州大学医学部卒業

S55年 九州大学第三内科入局

S59年 北九州市立小倉病院糖尿病
センター勤務

S62年 医学博士

S62年～H2年
米国テキサス大学サウス
ウエスタンメディカルセンター
(ダラス) 生化学留学

H2年 社会保険稲築病院勤務

H3年 九州大学三内科助手

H11年 同講師

H12年 同助教授
(呼称：H19より准教授)

H21年 福岡大学医学部内分泌糖尿病
内科教授

本年4月1日付けをもって医学部新設講座の内分泌糖尿病講座の教授として赴任いたしました。福岡大学の明るい雰囲気はもちろんですが、仕事場から油山と福岡ドームと一緒に眺望できるロケーションも大変、気に入って楽しく仕事をさせていただいています。また、各科の垣根が低く、診療面で情報交換やコンサルテーションを気軽に行える雰囲気も大変、ありがたく新鮮です。

昭和55年、九大卒業後、九大病院、飯塚病院での2年間の臨床研修を行いました。忙しくも楽しかった研修医時代がつい最近のようでもあり、その時の臨床経験が内科医師としての自分の原点となっています。その後、北九州医療センター糖尿病センター勤務、九大病棟医員時代を経て、米国テキサス大学(ダラス校)に留学、平成2年に帰国後、稲築病院勤務、平成3年助手として九州大学に帰学し、講師、准教授を経て、本年より、福岡大学にお世話になっています。私自身、内分泌と糖尿病の専門医兼指導医ですが、どちらか一方の分野に偏った診療ではなく、両方の分野で高度の専門性を発揮できる真の意味での内分泌代謝専門医を数多く育て、皆様とともに地域医療に貢献できればと思っています。これだけ長い間、医師生活を送っていながら自分の専門分野でさえ、目の前の患者さんについてよくわからないことや不思議なことを日々、しばしば経験します。熟成ワインの如く、年をとればとるほど、内科臨床の奥深さと醍醐味を感じるこの頃です。糖尿病、メタボは今や国民病といわれるくらいに蔓延しており、院内、院外で当科の果たすべき役割りと責任も極めて大きいと自覚しています。また、予防医学の考えに通じるトータルケアとしての抗加齢医学にも興味があり、その専門医でもありますので、この方面でも何か皆様に貢献できることはないかと思案中です。今までのidentityを大切にすると同時に福岡大学の特色や今後の方向性にも貢献できるよう、努力する所存です。学生時代は陸上部や剣道部に所属していましたので、元来、体を動かすことを好みます。現在の趣味は、愚息とのキャッチボール、ジム通い、映画、出張移動中の読書です。週末にぐっしょり汗をかいて、ポロポロ泣ける映画を見て、専らストレス解消しています。烏帽子会の皆様には、今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。

福岡大学筑紫病院整形外科教授に就任して

福岡大学筑紫病院整形外科 教授 柴田陽三(4回生)



柴田陽三教授 略歴

- S56年 福岡大学医学部卒業
- S56年 福岡大学医学部
整形外科学入局
- S58年 福岡大学医学部大学院
- S62年 医学博士
- S62年 みやま市ヨコクラ病院
- H元年6月
白十字病院
整形外科 部長
- H元年10月
福岡大学病院
整形外科 助手
- H5年 福岡大学病院
整形外科 講師
- H17年 福岡大学病院
整形外科 助教授
- H21年10月
福岡大学筑紫病院
整形外科 教授

皆さんこんにちは。平成21年10月1日付けで福岡大学筑紫病院整形外科教授を拜命いたしました柴田陽三と申します。私は福岡大学医学部の第4回生として昭和56年に卒業し、直ちに福岡大学医学部整形外科学教室に入局いたしました。当時は、現在のような全科ローテーション制度はなく、国家試験合格と同時に希望する講座に入局をしていたのです。1年目は大学で、2年目は国家公務員共済組合会浜の町病院的整形外科で臨床研修を行いました。3年目に大学院に進み、人間が覚醒した状態での肩の動態関節内圧を測定する方法を開発し博士号を取得いたしました。本研究の成果は英国のProf Watsonの目にとまり、Churchill Livingstoneから発刊された教科書の分担執筆の荣誉に授かりました。大学院卒業後は、みやま市のヨコクラ病院の一人医長として2年間、救急医療に携わりました。その後、いったん市内の白十字病院整形外科に部長として勤務し、平成1年10月より福岡大学病院に助手として戻って参り、平成5年に講師、平成17年に助教授に就任し、この度、筑紫病院整形外科教授に就任いたしました。臨床では一般外傷と肩関節外科に携わってまいりました。肩関節という器官は、野球をはじめとする球技で故障を起こすことが多く、数多くのスポーツ選手の治療を担当いたしました。なかでも某パリーグの球団には、2軍選手3名に関節鏡下手術を行い、その後に1軍昇格を果たすことができました。私は臨床研究を主体に行って参りましたので、これまで2500例を超える肩関節外科の執刀経験（一般外傷・骨折は他に1000例ほど）を持っております。近年、外科医にとりまして訴訟問題を含めまして非常に逆風の強い時代です。引き続き臨床研究を推進させると同時に、教室員を指導して世界水準のスキルに到達できるように手術習得システムを開発して行きたいと考えています。現在はその第一歩として、精密模型を用いたり、ハワイ大学と提携して、新鮮凍結屍体肩を用いたりした関節鏡視下手術トレーニングを行っております。今後は、臨床教育、研究活動を通じて、筑紫病院の一層の発展のために尽力を尽くして参りたいと存じます。同窓生の皆様には今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

教授就任祝辞

柴田陽三先生 福岡大学筑紫病院教授 ご就任の祝辞

福大整形外科同門会会長 原 道 也 (7回生)



柴田先生の福岡大学筑紫病院教授ご就任を、整形外科同門会会長として又ゴルフ部後輩として、心よりお祝い申し上げます。

先生とはゴルフ部で知り合ってから、かれこれ30年以上の長い付き合いになり、現在も仕事にゴルフにお酒にと公私共に仲良きさせていただいています。

先生の性格は、昔の青春学園ドラマに出てくるような真面目で努力家で情熱にあふれ、口うるさい時もあるけれども、熱意と愛情に満ち溢れ、同僚はもちろん後輩からも慕われる人柄です。このように欠点を探す方が難しいほどですが、一つ言わせていただくとすれば少しばかり話が長いことでしょうか。それ以外を除けば、全てのことに長けているといっても過言ではありません。

先生は、一つの事を成し遂げるために、弛まぬ努力をされる方だと思います。それを物語るのが20年以上を七隈で頑張られて准教授になられたことで

す。初代・高岸名誉教授、2代目・故 緒方教授、3代目・現 内藤教授にと3代に渡って仕えられていました。これは先生の専門である肩関節外科で多大な業績を残されているのと共に、日本肩関節学会の事務局の長として一生懸命仕事をしていらしたのが評価されたと思います。

先生の手術は、ダイナミックであるにもかかわらず繊細で、短時間でありながら正確な手術を行います。術後の成績も良好で、それらは内外を含めた多くの学会で発表し論文にされています。そのため多くの肩の障害を持つ紹介患者さんで手術は数ヶ月待ちの状態が続いています。このことが教授に選ばれた要因の一つではないかと思っています。

これから先生が筑紫病院で最大限に力を発揮され、整形外科教室を大きく発展させて下さることを期待しています。また七隈と筑紫にさらなる交流を広げて、お互いに切磋琢磨していただきたいと思います。

柴田先生、改めてこの度は福岡大学筑紫病院教授ご就任おめでとうございます。

お 詫 び

パニックマニュアルVOL.5の発行が遅れます。

烏帽子会では先輩が後輩を思いやる形として、毎年新卒生に対し卒業記念品として「パニックマニュアル」をお贈りしています。来年3月には33回生が卒業しますので、当然そのつもりで準備を進めておりましたところ、東京の医学書出版社「海馬書房」より強い出版希望の申し出があり、理事会で数回に亘り検討の結果その要望を受ける事になりました。

しかし、33回生が卒業する3月末には到底間に合いそうにありません。誠に申し訳ありませんが出来次第、なるべく早くと云う事でご容赦願いたいと存じます。

なお今回の出版は第5版の初刷という事になりますので、33回生以外の会員方々にも少し遅れてお届け致します。

以上お詫びとお知らせ申し上げます。なおこの本の編集は21回生の北島研先生（総合診療部）が担当しておられます。

烏帽子会事務局

教授退任挨拶

退任のご挨拶－感謝－

旧第1外科教授 池田靖洋 (特別会員)



1984年4月以来、22年間、主任教授(1991年10月～)としては14年半、旧第1外科で白衣を着させていただきました。主任教授の定年は70歳でしたが、65歳定年制への移行により段階的に辞めることになり、私は67歳となった年度末の2006年3月に1外科を退任いたしました。その時点で、大学を去るか、70歳まで総合医学研究センター教授の身分で診療を続けるか、の選択肢がありました。後者を選択させていただきました。これまで目指してきた「膵癌の早期診断と治療」をもう少し続けたい気持ちと、その成績を国際誌に報告する責務を感じていたことが主な理由でした。このような経緯で、トータル25年間も、好きな臨床に従事させていただいたことを感謝しています。

2006年10月、外科学講座の再編に伴い、1外科、2外科の名称が消え、消化器部門は両外科が合併し、消化器外科教室が誕生しました。一抹の寂しさは禁じ得ませんが、患者さんに理解されやすいように、時代の趨勢からも尤もな成り行きであったと思います。第1外科初代教授志村秀彦先生には、温かいご指導を賜りました。各医局員は、肝胆膵疾患、消化管疾患、乳線内分泌疾患、膵島細胞移植などにわたり、診療、研究、論文・学会報告に活躍し、私を支えてくれました。この度、無事退任できたのも、本学出身の医局員はもとより、関わって下さった多くの

同窓の方々のお陰であり、紙面を借りて心から御礼を申し上げます。

思い起こしますと、1外科退任時、一旦退任記念会の準備が始まりましたが、同門だけの慰労会レベルに変更していただきました。理由は、その後の3年間(総合医学研究センター)、仕事に対する気持ちが萎えることを危惧したからでありました。結果的に、仕事を継続することができ、国際誌(Pancreas)に投稿した論文が掲載され、最終講義(1月9日)や退任記念講演(3月28日)の準備にも集中することができました。与えられた3年間を生かすことができ、幸運であったと思っております。

一方では、硬式庭球愛好会の顧問(1999年4月～)を10年間させていただき、仕事から離れて、コートやコンパで、素晴らしい学生諸君と接することができたことも幸せでした。沢山の部員が最終講義を聴いてくれ、またOB主催で退任祝賀会まで催していただき、生涯忘れられない思い出となりました。

皆様のご活躍と大学、医学部・病院の益々のご発展をお祈りいたします。



学生対策報告

学生対策事業報告

〔新入生歓迎会〕

常任理事 中村秀治(5回生)

毎年学生対策事業の一部として6年の国試激励会、4年生のCBT試験激励会、新入生の入学歓迎会を行っています。10年ほど前に6年の国試激励会を始めたのが始まりで、その後、学生とOBとのふれあいをもっと増やそういう事になり、今の形になりました。参加者は学生、20名以上のOB、のみならず学生担任の教授、教職員も多数御参加頂いております。

懇親の場では勉強、クラブ活動、レジャー、将来の方針等、その他よもやま話に花を咲かせます。OB達の学生時代の話、医者になってからの経験談等を聞く事によって、学生たちがより良い学生生活を送るのに何か参考になってくれたら良いなと思っています。

2～3年ほど前より、新入生の入学歓迎会を除いては、学生主催の形式をとっております。学生主催の決起集会上にOB、教職員が参加するという形式で、こちらのやり方のほうが、「OBが学生を招く」というやり方よりも学生の自主性が尊重され、学生の欠席

者もごく僅かになり、さらに盛会です。4年、6年の激励会では第一戦で活躍中の卒業生を講師に招き、講演会も併せて行っております。講演では卒業生の研究成果、海外留学の話などに聞き入り、学生が将来を夢見るのに充分に役立っているようです。

今年は5月29日に福新楼にて新入生歓迎会を行いました。現役入学の学生、多浪の学生さままでですが、最近卒業生の子弟も増え、嬉しい限りであります。後日、新入生から私に相談のメールが届きました。「今は文科系のクラブに所属しているが、医者の世界は縦の繋がりが強いと聞いているので、繋がりが強い運動部にも入っておいた方が良いのだろうか?」との相談でした。「出来るなら運動部にも入っておいた方が良い」と返信しました。学生とのふれあいが、OBを気安く相談できる身近な存在にしてくれたようです。

〔M6 国試激励会の報告〕

専務理事 松永 彰(3回生)

平成21年6月12日(金)に、ホテル モントレラスール福岡で開催された。学生の参加は当初90名の予定であったが当日欠席の学生が多く、参加学生は78名であった。神経内科講師の馬場康彦先生に非常に元気の出る講演を頂き、懇親会には副担任、国

試対策委員、高木同窓会長をはじめとした同窓会役員が多数参加された。いつものように会の最後は、みんなで福岡大学校歌を合唱し、非常に盛り上がった激励会となった。

〔M6 国試対策夏期集中セミナー報告〕

専務理事 松永 彰(3回生)

平成21年7月24日(金)～26日(日)に、昨年と同様に第1回模擬試験の下位30名プラスαのM6学生を対象として、福大セミナーハウスで開催した。内科系の国試対策委員の先生方を中心とし、小児科(2コマ)、産婦人科(2コマ)、自治医大の河野先生

(2コマ)も含め合計17コマの集中講座をおこなった。学生は27名が集中講座に参加した。当日は豪雨であったが、夏期集中講座は予定通り行うことができた。初日の懇親会には、黒木医学部長、斉藤学年主任、高木同窓会長など多数の先生方に来て頂いた。

最終日に出席した学生に対して無記名のアンケートを行ったが、いくつかの問題点の指摘はあったものの概ね夏期集中講座の意義には肯定的な内容が多かった。豪雨のため宿泊の準備をしていなかった学生に

は脱落者も見られたが、出席した学生のモチベーションは比較的高く、昨年より講義中に寝てしまう学生は少なかった。この企画は来年度も続ける予定である。

〔2009年度福岡大学医学部同窓会烏帽子会主催 M4年生CBT激励会を行って〕

専務理事 竹下盛重 (3回生)

2009年9月4日(金)、18時より、天神グランドホテル側、ホテル モントレ ラ・スールで上記激励会を行いました。学生の参加を促すため、3年前よりこのようなホテルでの講演会、テーブル形式での食事に変更しております。それ以降は90名以上のM4年生、学年担任数名、10名以上のOBの先生方が来られております。今回は、学生87名の出席になりました。9月1日(火)に再度連絡をしましたが、出ると言って欠席した者が10名いました。この方々には、開催した翌週に、約束を守るという社会人の最低マナーを行うように注意しました。さて、この会はM4年生の1月に行われます共用試験CBT (computer based test) への認識と団結(チームワーク)の効果をねらい行っております。今回は、第一部としまして、再生・移植医療准教授小玉正太先生(13回生)が「卒後20年を振り返ってー Harvard で過ごした再生・移植研究の10年間を中心に」というテーマで話していただきました。膝ラ氏島細胞移植に加え、謎を含む脾臓にラ氏島細胞の再生を促す再生遺伝子(Hox11)がある、脾臓にはラ氏島細胞の前駆細胞があるという画期的な話でした(全文は次号掲載)。その他、軟骨細胞再生移植など学生には少し難しいところがあったようですが、感銘を受けておりました。今後卒業して5、10年後に直に遭遇します日本の移植医療を話していただき、学生には大きな経験になったと思います。この学生の中で是非世界をめざして、留学する方ができていただきたいと思います。第二部は、着席形式でのパーティーを行いました。ここからは学生の臺之尊君が司会を行いました。まずは、高木会長が挨拶を行い、乾杯を行いました。正式な着衣で来るようにいっておいりました学生達が、通常とは違い大人にみえるといわれたコメントの様に、4年生になり段々と現実味を帯び、頼もしくなってきました。この後は、4年生

が主力選手、幹部をしめています西医体の結果報告、医学祭の説明、来年の九州山口医科学生大会の解説と説明をしていただきました。今回の西医体は、女子が非常に頑張っておりまして、その中でも、全医体アーチェリーの女子部は団体優勝をし、個人でもM4の岩松さんが優勝しました。医学祭は、麻植君が大会委員長で資金面、人的な面での支援を求めています。また来年の九山大会は福大主催で行われます。その説明とこれからの抱負、大会での活躍を期していました。個々人は、人の前で話をする難しさや重要さなどを感じていただけたものと思います。学生間でチームワークを作ること、友人を作る意味でも大切な会となったと思います。また、学生は各テーブルで医師、OBと話をさせていただき、充実した時間が得られたことと思います。現状の医療、各人将来どの科に行けば自分の能力が発揮出来るかを模索している様な質問が出ていました。我々にとり、未来の医療を支える医師になることを期待してもよいM4年生ではないかと思えます。さて、我々学内のOBにおいて、臨床研修であるBSLを行います前のCBTの試験は、4年生までの学習の集約、まとめと捉えており、非常に大切なものであります。「CBT コアカリ」なる参考書がありますが、そういう状態でなく、十分に基礎を把握し、臨床を考えていただければ、よりよい臨床実習、100%の国家試験が望めるものと思います。M4年生のこの時期にこのようなOB主催の激励会を行うことは意義深いものと思います。この会は、学生が自主的に全員参加する会になってほしいと思っております。最後に、重田副会長も言われましたように、次世代を担うこの学生さん達が少しでも多く本大学、周囲の関連病院に残り、大きな一翼となり福大を盛り上げ、活躍していただくことを希望します。

教室部門紹介

福岡大学医学部 解剖学

解剖学 助教 入江 豊 (12回生)

当教室では、肉眼解剖学、中枢神経の教育、並びに生体工学の研究を中心に行い、最先端のがん治療への応用研究を幅広く行っております。

立花克郎教授以下、小川皓一准教授、フェリル・ロリト講師、遠藤日富美、ムサビ N. S.F.、以上私も含め6名のStaffと大学院生の原田、松尾、秘書重弘から構成されアカデミックながら家庭的で国際色豊かな教室です。学生さん達とは、ほぼ10ヶ月もの長きにわたり実習を通して親交も深く、わざわざ足を運んでくれる学生さんも多い教室です。

国の厳しい新ホルマリン環境基準設定を受けて、2009年度から解剖学実習室が世界のトップレベルのハイテク空調システム実習室となり、あの臭いとイメージが払拭され快適な実習が行えるように成りました。学生諸君は知識のみならず、医師としての倫理面での教育も不可欠であるとの考えから辛口の講義、実習を行っておりますが、他方、音

楽を通し医学部生たちとの親交を教授自ら率先して深めており、厳しさの中にも親しみを感じられる教室ではないかと自負しております。よりよき医師を育成するために医学教育における解剖学の役割を果たすため、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

文責:入江 豊(助教)

E-mail:irieyu@cis.fukuoka-u.ac.jp

連絡先:内線 3206



福岡大学医学部 細胞生物学

細胞生物学 助教 土井佳子

同窓の先生方には益々、御活躍のことと存じ上げます。細胞生物学教室は、平成18年4月に白澤専二教授が着任され、今年で4年目を迎えました。

教育では、今後のオーダーメイド医療を見据えて、医師にとって必要な最先端の情報を取り入れた組織学・発生学・遺伝学に取り組んでいます。

研究では、遺伝子、タンパク質の機能を細胞レベルで研究するのみならず、遺伝子改変マウスを樹立

し、個体レベルでの研究を展開しています。現在、厚労省の大型プロジェクトに採択され、先進の機器を導入し、癌、肥満、自己免疫疾患に関係する遺伝子の同定・機能解析を行っております。医療・臨床と大きな接点を持ちつつ、生命科学の最先端の研究を行っている研究室です。また、白澤教授は文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のもとに、平成20年度に福岡大学に設立された先端分子医学研

究センター長も兼任されており、様々な疾患を対象とした多因子疾患病因・病態解析を推進しています。

今後も、福岡大学細胞生物学教室および福岡大学先端分子医学研究センターから、病態の解明と治療を目指した医学・生命科学への新たな知見を生み

出すことに挑戦し続けたいと考えております。

Home Page:

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/cellbio/index-j.html>

連絡先;内線 3255

福岡大学医学部 生理学教室紹介

生理学 助教 市川 純

生理学教室は創設以来、骨格筋・心筋・平滑筋の興奮収縮連関・薬物収縮連関を制御する分子機構の解明を目指して研究を続けてきました。近年、井上隆司教授の専門である様々な物理化学刺激に応答するカルシウムチャネル (TRP チャネル) に関する研究は数多くの重要な成果をあげ、世界をリードしています。更に、カルシウムや cGMP といったセカンドメッセンジャーの細胞内での詳細な役割の解明を行うべく、電気生理学的手法および分子イメージング的方法を用いた実験系を構築しています。また、海外・国内の研究スタッフや学生の短・長期間の受入れも行っており、教室内は活気に満ちています。

教育面では医学部 2 回生対象の人体機能学 I および人体機能学 II を担当し、生理学分野の教育にあたっています。生理学は、人が生きるために行っているあらゆる生命活動、つまり生命の基本原則を学び、研究する分野です。複雑多岐にわたる病気を理解し、的確な治療方針を立てる能力を身につけるためには、まず人の健康な状態、すなわち細胞から個体にいたる各レベルでの正常な「働き=機能」を知るこ

とが重要です。そのために、私たちは学生の方々が理解しやすいよう日々創意工夫して講義・実習を行っています。

私たちは大学院生としての教室への参加を心より歓迎いたします。詳しくは研究室ホームページ (<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/physiol/index-j.htm>)、もしくはお気軽に研究室まで遊びに来て下さい。場所は医学部研究棟別館 1 階第一資料室 (内線 3 2 2 5) です。

(教室員)

教員:井上隆司教授、上原明准教授、森誠之講師

波多江純眞講師、内田俊毅助教

本田啓助教、倉原琳助教、市川純助教

教育技術職員:赤星瑞絵

安河内緑 (人間生物系総研)

海外特別研究員:菅忠 (Jian Zhong)

史娟 (Shi Juan)

大学院生:瓦林靖広

特別研究学生:今井裕子

福岡大学医学部 生化学

生化学 講師 四元 房典

当教室は黒木政秀教授の下、芝口浩智講師、四元房典講師、白須直人助教、森戸夏美助教、山田博美技手、秘書の常賀久美子、研究補助員の成松明菜で構成され、大学院生 5 名と学部学生 1 名も在籍しており、産婦人科学の宮本新吾教授や看護学科の黒木 求教授も時間を見つけて研究の指導に

当たっていただいています。

研究は悪性腫瘍に対する 1) 免疫療法と遺伝子療法、2) 分子標的治療、3) 超音波療法の開発を目指し、どの研究グループも治療応用につながるテーマを複数進め、その研究業績は主要な国内学会や国際学会で発表し、原則英文論文としてまとめている

ます。

教育では医学部生・大学院生の生化学関連の講義を担当し、生命科学分野の基本となる生化学という学問を通して、横断的かつ重点的に疾患の病因および病態の解明を目指すための知識を身につけた医学研究者の育成を目指しています。

研究の厳しさの反面、飲み会も頻繁に行われ、黒木教授のお人柄のせいもあり、いろんな科の先生方との交流も盛んでにぎやかな教室です。ご紹介できない情報がたくさんありますので当教室のホームページにお気軽にアクセスしてみてください。

(<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/biochem1/index-j.htm>)



薬理学教室の紹介

薬理学 准教授 山本 信太郎

薬理学教室は、平成19年4月から三代目の岩本隆宏教授が就任され、若いエネルギーを結集して教育・研究を行っています。スタッフは、岩本教授の他、山本信太郎准教授、喜多紗斗美講師、伊豫田拓也助教、山田敏樹助教(学長付)、佐藤千江美教育技術職員の6名です。現在、遺伝子レベルから個体レベルまで生体機能を多角的に解析できる研究環境が整いつつあり、循環器薬理学、特に $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換体を中心とした膜輸送体に焦点を絞り、多くの遺伝子改変マウスを開発して研究を進行しています。教育では、人体機能学Ⅳの講義と実習を担当しています。学生には臨床医学への明確な問題意識を持って学んで貰いたいと考え、将来役立つ知識・応用力の提供を心がけています。毎週金曜日午後4時から薬理研究セミナー、毎月第3金曜日午後5時からは生理学薬理学合同セミナ

ーを開催しています。レクリエーションも充実し、教室旅行(写真:本年8月阿蘇)や忘年会に加え、各種スポーツ大会など、サイエンスを推進するエネルギーを蓄えています。現在、当研究室の研究テーマに興味のある大学院生を大募集しています。また、学部生向けの実験ゼミも開催していますので、興味のある学生はお問い合わせ下さい。



福岡大学医学部病理学講座

病理学 医局長・准教授 久野 敏

平成14年4月1日付で旧第一病理学と旧第二病理学が統合し、福岡大学医学部病理学講座として新しく発足しました。福岡大学医学部病理学講座は福岡大学病院病理部と協力して診断、教育、研究にあたっています。病理学は基礎医学に所属してはいますが、臨床と常に一体となった業務内容です。臨床から出された標本の病理診断を行って、臨床はその診断を基にして治療方針を決定します。臨床サイドから病理へ求められている診断内容および診断技術は近年増え続けています。その期待に答えるべく我々は日々研鑽しています。

我々の教室は脳神経、血液、リンパ節、軟部組織、頭頸部、肺、心臓、血管、消化器、肝臓、胆嚢、膵臓、泌尿器、男性性器、女性性器、乳腺、内分泌、皮膚などの各臓器の診断を専門的に行うことができます。日本の大学病理学講座の中で、これほどにあらゆる分野を専門的に対応できる大学は他に類をみないと自負できます。一般染色（HE染色）に加えて、必要に応じて特殊染色、免疫染色（蛍光抗体法、酵素抗体法）、電子顕微鏡、in situ hybridization、laser captured 法による組織培養、PCR、Southern blotting、遺伝子解析などあらゆる技術を駆使して診断および研究を行っています。

大学の使命である研究に関して岩崎主任教授、竹下正教授、坂田教授、鍋島教授、久野准教授、中山准教授、溝口講師、二村講師、濱田講師、濱崎助教、青木助手、古賀助手、林助手のスタッフが悪性リンパ腫、白血病、骨軟部腫瘍、循環器疾患、脳腫瘍、消化管疾患、前立腺腫瘍、膵腫瘍、肺腫瘍、女性生殖器、男性生殖器、泌尿器、皮膚疾患、乳腺、腎生検病理を中心に行っています。各臓器の診断および研究は先程述べた手技に生化学的手法を加えて行っています。得られた結果は毎年、欧米の一流学術誌に掲載され、日本のみならず欧米の学会で報告しています。また、これらの業績は臨床各科から研究にきている大学院生および研究生の学位論文になっています。

福岡大学医学部病理学講座は開講以来蓄積されてきたことを礎として、更に21世紀に適した教室として日々研鑽、努力を重ねて発展するよう全員ががんばっています。

文責：久野 敏（医局長、准教授）

連絡先：内線 3271

email: hisanos1@cis.fukuka-u.ac.jp

（1はイチ、二、サンのイチ）

再生・移植医学講座

再生・移植医学 准教授 小玉 正太 (13回生)

当講座は膵島移植医療を臨床業務とし、他に学部生・院生の教育をはじめ、様々な研究テーマに取り組んでいます。安波教授はグローバル福岡大学プログラムを主宰し、基礎・臨床講座と seeding から translational research、臨床糖尿病研究に至るまで、幅広い視野でプログラムを展開中です。

臨床膵島移植はI型糖尿病に対する新しい治療

法として、国外では2000年に、国内では2004年に開始されました。九州では2006年11月に第一例目が福岡大学病院で実施されています。日本では認定施設が6施設に限られており、福岡大学病院は、京都大学以西唯一の認定施設であり、主に九州・沖縄の実施病院となっています。その後移植は細胞の単離に使用します、消化酵素に狂牛病感染の懸念が持たれた為、一時全世界的に中断してしま

たが、近日には再開予定です。また、髒島移植は細胞移植であるため、研究分野では遺伝子導入や再生医療など様々な細胞修飾を加える事が可能です。このため基礎研究分野を、最も臨床に反映する事が出来る分野の一つであると思われ、今後の治療展開が期待されています。

ところが現在移植医療では、閉塞的かつ慢性的なドナー不足を迎えています。そしてこれらの環境を打破するには、幹細胞移植をはじめとする再生医療の整備が急務となっています。教室でも再生医学分野に関しては、現在ヒトおよびマウスの iPS 細胞単離培養室が準備中で、近々本格的に臨床応用に向け標的細胞への分化誘導を開始します。他にも胚性幹細胞・体性幹細胞研究は、以前より研究レベルで成果を認めおり今後臨床展開を念頭において展開して行きます。

教室の業績に関しましては、免疫寛容への誘導、NKT 細胞を介した移植時免疫応答、早期移植細胞傷害からの回避、体性幹細胞誘導、幹細胞研究、組織工学的再生などで、高い国際的評価を得ています。今後は更に多角的、横断的な研究・臨床体系に対応して行きたいと考えています。

最後になりましたが、我々が学生時代に再生医療

という言葉は、勿論存在しませんでしたし、この分野がこの様に重要になるとは想像も出来ませんでした。加えて、医療の進歩は日進月歩と言われますが、今後の移植医療等は将来、再生医療の output としてのみ存在して行くのかも知れません。移植医療や再生医学分野に興味がある方は、是非気軽に医局を訪ねてください。このような分野の行き先は我々も判りませんが、共に考えてみましょう。(文責 小玉正太)

教授:安波 洋一

准教授:小玉 正太

助教:中野 昌彦、
松岡 信秀

大学院生:米良 利之、
小島 大望

秘書:中島 典子、
金城 亜哉

(移植コーディネーター)

:医学部研究棟

本館 3 F

:内線(3631)

留学中:伊東 威

(Baylor University, Dallas, TX)



福岡大学医学部 衛生学教室

衛生学 講師 百 瀬 義 人

福岡大学医学部衛生学教室は、初代教授として江崎廣次先生が就任され、昭和49年4月に開講しました。現在は、畝 博（うね ひろし）教授を中心として教育・研究活動に励んでいます。

現在のスタッフ：畝 博（教授）、谷原真一（准教授）百瀬義人（講師）、今任拓也（助教）、瓜生洋子（教育技術職員）の5名です。

主な教育内容：3年生の講義（社会医学Ⅰ）では、産業保健概論（畝）、地域保健・地域医療（谷原）、健康教育、学校保健概論（百瀬）の他、医療保障と医の倫理を非常勤講師が担当しています。この他、社会医学実習および院外臨床研修を行っており、講義では得られない地域保健や医療の実際について見識を深めています。4年生の講義（社会医学Ⅱ）では、

産業保健、高齢者の保健福祉、公衆衛生法規・薬害（畝）、感染症の疫学、国際保健、社会保障制度（谷原）、人口保健統計（百瀬）の他、公衆衛生行政と環境保健を非常勤講師が担当しています。

主な研究テーマ：現在はアディポネクチンとレプチンの体重増加抑制効果に関する疫学研究、肥満関連疾患を標的としたVEGFの役割に関する前向き研究などのプロジェクトに取り組んでいます。

執筆者：百瀬義人（講師）

連絡先：電話 092-801-1011

（内線 3305）

FAX: 092-863-8892

E-mail: yoshito@cis.fukuoka-u.ac.jp

法医解剖室のリニューアル

法医学 教授 久 保 真 一（特別会員）

本年3月、法医解剖室がリニューアルされました。これは労働安全衛生法の改正により、ホルマリンの安全管理が見直されたことに伴うものです。医学部では、系統解剖、病理解剖、法医学解剖に関する諸施設が対象となりました。法医学関係では、解剖室と臓器保管室を改修して頂きました。改修の目玉は、解剖台システムの入替えです。天井側から空気を流出し、解剖台側で吸引することで、台上でホルマリン作業を行っても、気流の外側にホルマリンは漏れなくなり、ホルマリン暴露を防止することができるようになりました。また、このシステムは感染防御にも対応しております。さらに、昇降式となったことから、解剖業務による腰

痛等の身体の負担も軽減できるようになりました。システムの入替えに併せて、解剖室の天井や床の張替、壁の塗装などが行われた結果、明るい解剖室に



背広姿が筆者 教室のスタッフと

生まれ変わることができました。

法医解剖数は、65歳人口の増加に並行するように、ここ数年急激に増加しており、福岡大学でも年間50体に達しております。今回の解剖室のリニューアル

を受けて、私たちスタッフ一同も、新たな気持ちで法医解剖に取り組み、地域社会に貢献したいと考えております。

福岡大学医学部 RI 施設

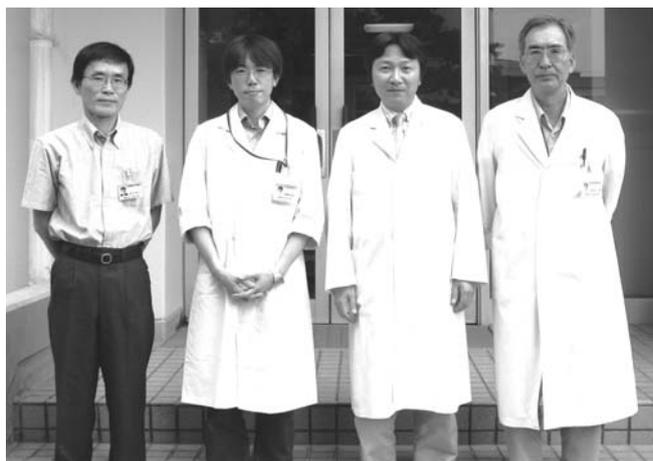
放射線取扱主任者 講師 高見 昇

当施設は放射性同位元素(RI)を用いた生物学的および医学的研究を使用目的として、1981年3月に使用許可を取得して以来、登録者総数は約1000名に達しようとしています。烏帽子会の諸先生方におかれましても研究に利用された方が多数おられ、懐かしいのではないのでしょうか。

現在、岩本隆宏施設長(薬理学教授)、高見昇取扱主任者、伊豫田拓也副主任者(薬理学助教)、松山弘二教育技術職員の体制で運営しております。管理区域面積は790㎡、使用室は12室あり他に貯蔵室、廃棄物保管室および廃棄作業室を有しております。

使用可能なRIは現在20核種であり、利用形態は各種細胞や生体試料を用いた生化学・分子生物学・薬理学的実験および動物代謝実験などの研究活動が主であります。以前は毎年約200名の登録者で混み合っておりましたが、non-RIの手技・手法を用い

た実験が主流となり、最近の登録者数は約100名と半減しスペースにも余裕がある状態です。利用に際して法で規定されている教育訓練受講や健康診断受診が必要となりますが、これまで然したるトラブルもなく役所の立ち入りでは良好な管理状態との評価を受けております。基礎的あるいは臨床的な研究でRI実験が必要な方は気軽にご相談ください。



福岡大学医学部精神医学教室 医局紹介

精神神経科医局長 助教 田中 謙太郎 (25回生)

福岡大学医学部精神医学教室は、患者さんと向かい合う臨床を重視した精神医学教室として、特に全国的に知られています。臨床力を第一として、研究、教育もできるバランスのとれた精神科医の養成と、患者さんを治せる人間性豊かな精神科医を目指して多くの教室員が努力しています。

研究部門も、精神療法、認知症、臨床精神薬理、児童思春期、統合失調症、性同一性障害、睡眠、スポーツメンタルヘルス、自殺予防など、充実しており、平成22年7月3日～4日には日本思春期青年

期精神医学会の主催、平成22年9月3日～5日には日本スポーツ精神医学会を主催する予定です。

比較的若い先生が多いために自由で活発な雰囲気医局です。教室を引っ張る若手の先生は、新たな取り組みをしていくことにやりがいを感じており、全員が一つにまとまってがんばっています。

今年は、西村良二教授が就任してちょうど10年目になり、医局員一同、なお一層の努力をしていきますので、どうぞよろしくお願ひします!!



福岡大学医学部精神医学教室
医局長 田中謙太郎(25回生)
kentanaka@adm.fukuoka-u.ac.jp

福岡大学筑紫病院消化器科教室・医局紹介

消化器科医局長 助教 高木 靖 寛 (15回生)

当科は松井敏幸教授を中心に新入医局員7名を含む在院医局員31名と出張医局員21名、合計52名で昼夜を通じ臨床主体の消化器疾患診療・研究を行っています。急性期疾患では胆道系疾患、消化管出血、急性腹症など、慢性疾患ではクローン病や潰瘍性大腸炎(年間約600名)、慢性肝炎など多岐にわたり県内外から多数の御紹介を頂いております。消化器部門は検査手技も重要で2008年には消化管内視鏡検査7500例、ERCP380例、腹部超音波7000例をはじめ、ダブルバルーン小腸内視鏡、NBI(narrow band imaging)併用拡大内視鏡や造影エ

コーなど新しい手技も導入し、系統的な臨床教育のもと若手もトレーニングに励んでおります。治療内視鏡技術も近年向上し食道、胃、大腸の早期癌・腺腫におけるESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は年間130例、胆膵臓疾患のEST(内視鏡的乳頭切開術)やPTCD(経皮経肝胆管ドレナージ術)180例、肝癌に対するラジオ波焼灼も60例と先進的な低侵襲治療も日常的に行っております。筑紫病院内科をはじめ外科や病理部の先生方の御協力を頂き、地域医療の発展ならびに消化器診療の進歩に貢献したいと考えております。



福岡大学筑紫病院 整形外科

整形外科医局長 助教 秋 吉 祐一郎

筑紫病院は地域医療連携病院という位置づけから、地域の診療所からの紹介患者や救急患者を中心に診療しています。手術も骨折などの外傷性疾患を中心に、昨年度は約500例でした。

福岡大学病院と異なる疾患配分であり、基本的に主治医執刀制としているため、福岡大学からローテーションで来る若い先生方のトレーニングの場として大変重要な役割を担っています。

平成21年10月から、松崎先生ご退官の後長らく空席となっていた教授の席に柴田陽三先生がご就任されることが決まりました。柴田先生のご専門である肩関節疾患の治療も加わり、今後これまで以上にがんばっていききたいと思います。同窓会の皆様からのご支援を何卒よろしくお願いいたします。

福岡大学筑紫病院 脳神経外科

脳神経外科 助教 新 居 浩 平 (24回生)

福岡大学筑紫病院脳神経外科は、現在外部派遣中のメンバーも加えて総勢13名で構成されており、私を含めた6人の福岡大学卒業生が勤務しています。脳神経外科医局としては小所帯ではありますが、最近では月40件以上の手術を行っており、他のどの病院に対しても恥ずかしくない手術症例数をこなしていると自負しています。

医局のモットーは‘若いうちからの臨床能力の向上’であり、私自身も現在までに約440例の手術を執刀しています。近年の症例数の増加やトレーニ

ング体制の充実で、私の後輩医局員は私以上のペースで手術症例数を経験しつつあります。

脳神経外科領域には超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法を代表とする内科的治療も含まれます。筑紫病院では主として内科的治療が適応となる脳梗塞やてんかん、髄膜炎などの疾患も当科で診療しています。これらは脳神経外科を専門とする医師に限らず市中病院ではしばしば遭遇する疾患です。これからは福岡大学出身の先輩医局員が、先端の外科的治療だけでなくポピュラーな内科的治療も含めた



症例も研修を受ける後輩医師により多く経験してもらい、指導できる環境を整えるように努力して行きたい

と考えています。

福岡大学筑紫病院 泌尿器科

泌尿器科医局長 講師 石井 龍 (5回生)

筑紫病院泌尿器科は、部長の平塚義治教授、石井 龍(講師5回生)、平 浩志(助教15回生)と坪内洋明(助手27回生)の4人でがんばっています。開設は1990年12月です。初代の有吉朝美教授も現部長の平塚教授も共に尿路変向術の第一人者で



すので、進行性膀胱癌の患者さんの紹介が多く、膀胱全摘とそれに伴う尿路変向を多数行ってきました。尿路の再建は、腹壁にストーマを形成する尿管皮膚瘻や回腸導管だけでなくS状結腸や回腸で新膀胱を造り、尿道から排尿できる自排尿型尿路再建も積極的に行っています。また前立腺癌に対する根治的前立腺全摘除は、最も増えた手術で10年前の3倍以上となり年間30-40例行っています。手術例数が増加すると、術者の経験値が上がるだけでなく、これまでの手術手技の問題点を徐々に改良できるため手術時間は昔の半分くらいになりました。腎細胞癌、腎盂尿管癌については根治性に問題がない病期であれば腹腔鏡を積極的に用いて低侵襲手術を目指しています。癌の手術の話ばかりになっていますが、前立腺肥大症、副腎腺腫、女性の膀胱癌や尿失禁、小児の停留精巣などの良性疾患の手術もコンスタントに行っています。外来は火、木、土曜です。よろしくお願いします。

福岡大学筑紫病院 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医局長 助教 一番ヶ瀬 崇 (19回生)

福岡大学筑紫病院耳鼻咽喉科は1991年12月に、医師2人で開設されました。現在は、本年4月に坂田准教授(10回生)が部長として就任し、福岡大学耳鼻咽喉科学教室と連携しながら、助教2人・助手1人の4人体制で診療にあたっております。

筑紫地区は、福岡都市圏のベッドタウンとして約42万人の人口を擁し、地区内では数少ない有床の耳鼻咽喉科病院として地域医療に励んでおります。一般的な耳鼻咽喉科領域の疾患はもとより、末梢性顔面神経麻痺や眼窩骨折、甲状腺や唾液腺等の頭頸部腫瘍の治療もおこなっています。また、急性喉

頭蓋炎等の急性炎症、鼻出血、外傷や異物といった救急患者への対応もおこなっております。



地域医療支援病院という性格から、紹介患者が多数を占めており、手術治療を目的とした患者数も増えております。近年、副鼻腔炎の治療・手術法として、内視鏡下に施行する機能的内視鏡下副鼻腔手術

(Functional endoscopic sinus surgery : FESS) が主流となってきており、当科での手術件数も増加しています。また、耳科手術も積極的におこなっております。

福岡大学筑紫病院 放射線科

放射線科医局長 助教 中 島 力 哉 (14 回生)

現在 4 名の放射線科医 (日本医学放射線学会専門医 3 名、認定医 1 名) が在籍しています。

CT(64 列 MDCT),MRI(1.0T) の画像読影、腹部領域を中心とした血管造影検査など、画像診断に関する業務を担当しています。血管造影に関しては、診断のみならず、主に腹部領域の動脈塞栓術を中心とした、血管内治療 (IVR) にも取り組んでいます。同手技による、救急現場での緊急止血治療にも貢献しています。

年間検査件数は、CT 約 12000 件、MRI 約 4000 件、腹部血管造影約 120 件です。近年、CT 装置の性能向上に伴い、増加傾向です。

また、当院は、地域医療支援病院になっており、地域の先生方からの CT, MRI 検査依頼に対し、画像診断提供を行っています。

さらに、画像配信におけるフィルムレス化のため、平成 20 年 5 月から、院内 PACS (医用画像管理システム) を構築しました。

これにより、画像配信の更なる効率化が進むものと考えられます。

以上、最近の業務に関して、ご紹介させていただきました。

今後ますます、医療における画像診断のしめる役割は重要になってくるものと考えられます。より質の高い画像診断を目指し、努力して参ります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



平成 20、21 年度 在外研究援助金受給者名簿

姓 名	回・学年	勤 務 先	地位役職	留 学 先	予定期間	支給額
三 原 誠	25	東京大学病院 形成外科	助 教	アメリカハーバード大学移植外科 (マサチューセッツ総合病院)	0912-1003	20 万円
深 見 達 弥	22	福岡大学医学部 産科婦人科学	助 手	アメリカ カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	0909-1108	20 万円
桑 野 孝 志	25	福岡大学大学院 医学研究科先端医療科学系	福 大 大学院生	アメリカ ペンシルベニア大学	1004-1203	20 万円
中 川 元 道	22	福岡大学医学部 消化器外科	助 教	デンマーク、コペンハーゲン 王立病院	1004 - 1103	20 万円

キャンパスだより

《平成 20・21 年度 烏帽子会賞受章者名簿》

年	年月日	受賞者	受賞対象
20	20. 6.20	竹山文徳	平成 20 年度九州山口医科学生体育大会柔道部門中量級個人優勝
	20.11.21	サッカー愛好会	第 60 回西日本医科学生総合体育大会サッカー部門優勝
	20.11.21	揚塩真崇	At 2008 The Medical English Speaking Society 優勝
21	21. 8.28	竹山文徳	平成 21 年度九州山口医科学生体育大会柔道部門中量級個人優勝

九山を終えて

福岡大学医学部柔道愛好会 竹山文徳 (M3)



こんにちは。三年生の医学部柔道愛好会の現キャプテンをやらせていただいている竹山文徳です。

まず始めに、烏帽子会賞制度を創設して頂いた医学部同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。このような賞の存在は、我々学生にとって、とても励みになるものであると思います。

この度は、九州山口総合医科学生体育大会柔道

競技男子中量級男子個人戦で優勝しました。これで、1年生のときから3連覇した事になります。しかし、正直ここまで優勝し続けられるとは思いませんでした。スポーツは1人では決して上手くはならず、人と練習したり先生から指導されて始めて向上するものであると思います。だから今回も優勝できたのは柔道愛好会の皆さんやお忙しい中練習に来てくださる先生方のおかげだと心より思い感謝しています。

また団体戦の方は3位になり、下の学年もどんどん強くなっています。僕は年々力が落ちていっているのは実感していますが、6年生になっても、部員の誰からも必要とされる存在でいられるよう必死に練習して、九山・西医体優勝、九山個人戦6連覇目指して頑張っていきたいと思います。

初めてのスピーチコンテスト

福岡大学医学部 ESS 愛好会 揚塩真崇 (M2)

中学、高校とESSに入部していたので、大学に進学してからもESSに入部しました。しかし、スピーチコンテストに出場するのが初めてだったので、勝手がわかりませんでした。自分なりに初めて作った原稿も「これじゃあ少ない」とも言われ、かなり内容について悩みました。それでも何とか書き上げ、先輩方に英文の添削をしてもらい、原稿を完成させることができました。ですが、ほっとしたのも束の間、大会に向けて原稿を覚え、ジェスチャーを付け加えるなど、さらに行うことができず、次第に焦りを感じてきました。

大会当日は、受験以来の激しい緊張感に襲われ、本当にドキドキしました。しかしいざ壇上に立ってみると、意外なほどに緊張せずスラスラと原稿を読み上げることができ、自分自身驚きました。結果として

思いもかけず優勝をいただくことができ、名前を呼ばれた瞬間には、本当に驚き、感激しました。



この優勝は私個人がいただいたと言うより、私を支えてくれたクラブのメンバー全員でいただいたものだと思います。これからもESSで仲間たちと一緒に頑張っていきたいです。

快進撃！バスケットボール部

福岡大学医学部バスケットボール愛好会主将 久保田 慧 (M4)

2009年の夏は我々、福岡大学医学部バスケットボール部にとって最高の夏になりました。

まず男子ですが、初戦の相手は和歌山県立医科大学でした。緊張からか、最初はなかなか思うようにプレーできなかったのですが、7点差で見事勝利を手にしました。2回戦の相手は九山2連覇中の佐賀大学でした。試合開始早々から福大のオフェンスが爆発し、前半だけで30点近くリードし、余裕をもって勝利することができました。3回戦の相手は2006、2007年西医体優勝校の大阪医科大学でした。この試合でも福大は底力を見せ、3点差で勝利しました。続く4回戦は大分大学でしたが、健闘空しく6点差で敗れ、結果としてはベスト8で、全医体出場権を獲得しました。

全医体でも福大旋風は止みませんでした。1回戦の相手は東医体3位の山梨大学でした。試合開始から福大のシュートが面白いように決まり、前半で大差をつけ、後半からはベンチメンバーまで全員が試合に出場できたということが、何より良かったように思われます。2回戦は去年の東医体優勝校の東海大学を相手に好試合を展開しましたが、敗れてしまい全医体ベスト8という結果でした。

女子の初戦の相手は鳥取大学でした。試合開始直後から福大は3連続得点し、一時は追いつかれそうになったものの前半のリードを保ち、見事な勝利を手にしました。2回戦は大分大学でしたが、こちらは残念ながら敗れてしまいました。女子もここ何年も西医体での勝ち星に恵まれていなかったもので、とても大きな1勝となりました。

このように今年は男女共に躍進の年となりました。これも顧問の田中先生をはじめ、OB・OGの先輩方など様々な方面からの多大なるご協力、ご支援あってこそのもです。本当にありがとうございます。これからも一生懸命練習に励んで参りますので、引き続き変わらぬご指導ご支援のほど宜しくお願い致します。



サッカー愛好会

福岡大学医学部サッカー愛好会 目野 恭平 (M4)

去年優勝してから1年間、私達はもう一度あの喜びを味わうためにチーム一丸となり厳しい練習を行ってきました。たくさんの1年生も入部し、大会前の練習試合でも良い結果が残せ、自信を持って西医体に挑むことが出来ました。

第1試合、相手は普段からよく練習試合をさせてもらっている佐賀大学との対戦でした。台風の影響で大会が2日間中止になったため、試合時間が40分に短縮されるという不規則な形で行われました。結果は

先に先制し、一度は追いつかれるが、後半突き放して危なげない試合運びで2-1で勝利しました。

次の日は宮崎大学との試合でした。宮崎大学とは2年前の西医体で負けた苦い思い出があったため、その借りを返すべく試合に臨みました。試合は終始福大が攻め続けましたが、最初から引き分け狙いであった相手の堅い守りに得点すること出来ず、スコアレスドローでPK戦になりました。しかし、去年以来PK戦にめっぽう強くなった私達はこれを制し、準々決勝へ

進みました。

準々決勝は、その日のうちに行われ、この試合からは試合時間が70分と元に戻りました。相手は九山で私達が負けた長崎大学を倒してあがってきた浜松医科大学でした。初めて対戦する相手でしたが、私達のチームの選手層の厚さを信じ、試合に挑みました。しかし、前半に疲れや暑さのせいか集中力を欠き、立て続けに2失点し、ビハインドを背負ってしまいました。後半、猛攻をしかけ1点を返すもののあと一押し足りず、1-2で負けました。

去年の結果と比べると物足り



ないですが、ベスト8という結果を残せたのは、試合に出たメンバー、負けているときも諦めず外から大きな声で応援してくれたメンバー、泥だらけで汚ないユニフォームを洗ってくれたり、ドリンクを作ってくれたマネージャー、みんなチーム一丸になったからだと思います。

最後になりましたが、サッカー部を応援してくださったOB、OGの方々、本当にありがとうございました。

銅メダル！！！！

福岡大学医学部バレーボール愛好会 魚住真弓 (M3)

今回西医体で好成績を修めたからは是非とも執筆してほしいというご依頼を同窓会会報の方から頂き、このような形で報告をさせて頂くことをありがとうございます。

今手元に銅メダルがあるわけですが、未だに夢のような感じがいたします。端的に結果を報告させていただきますと、1戦目九大棄権により不戦勝、2戦目福大 vs 熊大 25-6, 25-12、3戦目福大 vs 大阪医科大 25-14, 25-10、4戦目福大 vs 高知大 15-25、14-25。そして3位決定戦は対戦相手の岐阜大学に新型インフルエンザ感染が発覚し試合開始直前で出場停止。このように3位が決まったわけです。今年らしいハプニングに見舞われての結果であり、幸運の女神付きではありますが実力で勝った部分も事実であり非常に充実した大会の日々となりました。西医体までの間できる限りの練習試合を行い課題点を見つけては潰しの繰り返しで個人の技量はもちろんのことチームワークも養っていったのだと思います。コーチがついていないこともあり練習で何が必要なのかどうすればいいのかよく分からず自分たちで試行錯誤しながらここまで突っ走ってきました。バレーボールは6人で



行う競技です。個人の技量が最高なものでもチームワークや良い雰囲気が作れないと勝てるものも勝てません。これはコート内で戦ったメンバーに加えベンチメンバー、男子部員みんな一丸となって作ったことは言うまでもありません。本当に最高の思い出を沖縄で作ることができました。

このように素晴らしい成績を修めることができましたのも顧問の浦田先生をはじめ、バレー部のOG、OBの方など様々な方々からの多大なるご支援をいただいたお陰です。これからも部員一丸となって練習に励んでいきますので引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

西医体を終えて

福岡大学医学部硬式庭球愛好会 大山 かほり (M3)



ダブルス2、シングルス3の計5試合のうち、3つをとれば勝利となりますが、福大女子部の結果は次のようになりました。対金沢大学3-0で勝利、対広島大学3-0で勝利、対鹿児島大学3-0で勝利、対熊本大学3-2で勝利、そして準決勝、対滋賀医科大学は連日の雨のために時間切れとなり、最後まで試合をすることはできませんでした。決着がつかなかったため上位4校でシード1~4を決めるくじ引きをしました。思い返せば相手校の心無い応援を受けたこともありました。当校の主審に文句を言われることもありました。雨に降られ一日中宿舎に閉じ込め

られたときもありました。それまで不幸だ!とっていましたがくじでシード1を引いたときは西日本1幸せでした。残念ながらベスト4止まりとなってしまいました。我がレギュラー陣は今年になり対抗戦も含め、無敗です。去年も同じメンバーでしたが西医体3回戦敗退、それが今年は負けなしという結果です。レギュラーみんながプレーもメンタルも強くなっているようなので、次の九山こそは優勝したいです。大会中嬉しいこともありました。女子部のミーティングの折、一人一人が心からレギュラーを応援しているのが伝わり、女子部の結束力が増しているのがわかりました。

次は三校戦、当校、久留米大学、九州大学のノンレギュラーが競う試合がもうすぐあります。日常の練習の中で基礎を見直し、強いノンレギュラーを育て、ひいてはレギュラーへの刺激にもなればと思います。私もノンレギュラーのひとりとして励もうと思います。

最後に、前顧問の池田先生、現顧問の安西先生、OB・OGの方々、応援してくだり本当のありがとうございました。西医体でここまで来れたのも皆様のおかげです。加えて、これからもご支援、ご鞭撻のほどをよろしく願います。

水泳愛好会 活動状況報告

福岡大学医学部水泳愛好会 藤井 秀幸 (M3)

我々水泳愛好会は週に3回、本学のプールで活動しています。現在は男子19名、女子18名が所属しており、みなベストタイムの更新に向け日々熱心に取り組んでいます。

練習では各自の泳力に合わせ、上級・中級・初級に分かれて目的別に練習メニューを行い、さらにメニューを終えた後も時間が許す限り自主的に練習を行うことで、泳力の向上を目指しています。学年・性別を問わず同じコースで泳ぐことが多いため、上級生と下級生が接しやすく、その繋がりが強いのが水泳愛好会の特徴です。苦しい時には声を掛け励まし合ったり、下

級生でも水泳経験が豊富であれば上級生にアドバイスを言ったりと、互いに高め合いながら活動しています。

今年の8月に宮崎で開催された西日本医科学生総合体育大会では、37°Cを越す猛暑のなか、女子200mメドレーリレーにて36組中3位という結果を残すことができました。この種目に出場したリレーメンバーには1年生も6年生も含まれており、個人の練習量や技量もさることながら、日頃の活動のなかで学年を問わずチームとしてまとまっていたことが、今回の結果に繋がったものと考えています。

今後は来年度九州・山口医科学生体育大会での総合優勝と西日本医科学生総合大会での更なる上位への入賞を目標とし、より効率的な練習法の検討・実施など、これまで以上に懸命に取り組みたいと考えています。今年度は水泳に対し非常に熱意のある1年生が多く入ってくれたことや、近年は上級で練習を行う人数やスポーツクラブでの自主練習に励む人が増えつつあることもあり、将来的には好成績を残し続けるような強い愛好会になることを目指しています。今後とも我々水泳愛好会を宜しく願いいたします。



全医大を終えて

福岡大学医学部アーチェリー愛好会 岩松 有希子 (M4)



今年の8月、福島県で行われた全日本医科学生アーチェリー競技大会で、私は念願の個人優勝を果たしました。部としても女子団体優勝を成し遂げ、4年ぶりに優勝杯を福大に持って帰ることができました。

私が1年生の時から、全医大のトップは、男女そして個人戦・団体戦ともに同じ大学が独占していました。その強さは圧倒的で、福大の最上位でも200点近く差をつけられることがあり、また、女子の個人戦では1～3位がその大学の選手だったこともありました。そんな強さを見てきたからこそ、絶対に勝って優勝したいと思ったし、今まで頑張ってきたことができました。

そして迎えた今年、2日間とも雨と

いう悪条件での試合でしたが、練習通りに射ることだけを心がけ、最後まで自分の納得がいく行射をした結果、優勝することができました。また、後輩たちもそれぞれ頑張ってくれたおかげで、一度は人数が足りずに参加すらできなかった団体戦でも勝つことができました。

今年は、自分が部長として臨む特別な年でもあったので、このような思い出に残る試合になって本当に嬉しかったです。来年以降も、頼もしい後輩たちが福大の時代を築いていってくれと信じています。

最後になりましたが、いつもご指導・ご支援して下さるOB・OGの先生方、応援してくれた友達、そして一緒に頑張ってくれた部員に感謝したいと思います。ありがとうございました。



訃 報

正会員	由 村 俊 二 先生	平成 21 年 5 月 14 日	ご逝去 (6 回生)
正会員	浜 畑 俊 仁 先生	平成 21 年 9 月 21 日	ご逝去 (3 回生)
正会員	蜂 谷 隆 彦 先生	平成 21 年 10 月 17 日	ご逝去 (8 回生)

追悼 由村俊二先生を偲んで

おおつば皮ふ科クリニック院長 大 坪 東 彦 (6 回生)

平成 21 年 5 月 14 日午前 9 時 55 分、私達第 6 回卒業生の仲間、由村俊二先生が腎細胞癌のため亡くなりました。享年 53 才というあまりに短い人生でした。誰よりも頑強であったはずのあなたの追悼文を、まさかこんなに早い時期に私が書く事になるうとは今もって信じられません。多くの仲間を代表して、ありし日のあなたとの巡り合いを想い起こし、追悼の意を捧げたいと思います。

由村俊二君と私は福岡大学医学部の同期として昭和 52 年春に入学し、共に準硬式野球愛好会に入部しました。4 年間は下宿アパートも隣同士でした。あなたは名門、柳井高校野球部の出身で、鳴りもの入りで入部し当初から期待の星でした。入学当初から同期の金光君、上村君を加えた我々 4 人組は事あるごとに私の部屋に集まり、将来必ず九州山口大会を制し、その先には西医体を制覇する事を共に誓いました。

医学部の愛好会という立場上、グラウンドを自由に使えない逆境をはねのけ、毎日の夕方の練習に加え週 3 回の早朝練習、更には春、夏の合宿など苦業を共にし、学業以外はほとんどが野球の練習に明け暮れるという毎日でした。愛好会とは名ばかりで厳しい練習をこつこつと積み重ね、皆で力を合わせ耐え抜きましたね。

その甲斐あって昭和 54 年春に九州山口大会初優勝を遂げ、昭和 56 年には初めて出場した全日本大学準硬式野球大会九州選手権において、前年度日本一に輝いた福岡大学本学チームとベスト 8 をかけて対戦し、0 対 3 で敗れはしたものの、あなたは

左のエースとして先発完投し持ち前の重い速球と鋭く落ちるカーブで相手打線をほんろうし、『医学部チーム、あなどるなかれ』と本学チーム監督に云わしめました。この対戦が我々に大きな自信を与え、昭和 56 年夏に念願の西医体初優勝を成し遂げるに至りました。我々は誰かれとなく抱き合い、感涙にむせび喜びを分かち合ったことは云うまでもありません。また私達は素晴らしい先輩や同僚、後輩にも恵まれました。この野球部での貴重な経験は医学部を卒業し、医師になってからも大きな自信と誇りとなり私達を支えました。

大学卒業後、由村君は山口大学内科に入局し、消化器内科を専門とし研鑽を積んだ後、故郷である柳井市にて開業し、地域の人々のために尽くし絶大な信頼と支持を得ていたと伝え聞いておりました。1 年に 1 度は OB 戦などで会う機会があり、相変わらず元気でたくましい雄姿を目にしていたはずでしたが、あなたの病状の詳細を知ったのは平成 19 年の 12 月でした。直ぐさま野球部の仲間とお見舞に行った際、あなたは非常に喜んでくれて、笑顔で気丈に我々を迎えてくれました。その帰り際に奥様から余命 3 カ



月と宣告されている事を知らされ、一同愕然としました。しかしながらあなたは持ち前の強靱な精神力で病魔に立ち向かい戦い続けました。その後視力までも奪われ、どんなにつらく、どんなに不安な思いであったかと思うと言葉がありません。

最後にあなたを見舞ったのは亡くなる12日前の平成21年5月2日でした。あなたは酸素吸入を受けながら苦しうでしたが、時に冗談も交え必死で色々な事を私に話しかけてくれました。『何とか回復してもう1度博多に行きたい。』そう言い残しましたが、それはかないませんでした。我々が最初に見舞ってから、約1年5ヵ月後の5月14日に、ついにあなたは帰らぬ人となりました。

私達野球部員は、約22年前の昭和62年5月

18日に初代主将であった吉浦光三先生(享年37才)を劇症肝炎で失いました。敬愛する吉浦先輩に続いて、由村君、あなたまでこんなに早く逝ってしまうとは信じ難く、つらく、悲しく、残念でなりません。

53年の人生はあまりにも短い生涯でしたが、最後まで全力投球で戦い続けた姿は、自身の生き方を貫いた素晴らしいものであったと確信します。また、卒業後においても現役野球部員や後輩を常にいつくしむ持ち前の優しさは誰もが忘れる事がないでしょう。いつの日か吉浦先輩、由村君を交えて、天空にて一緒に野球をしたいと野球部員一同願っております。

由村俊二君、安らかにお眠り下さい。

平成22年 医学部医学科入学試験の要点

	A方式推薦	地域枠推薦	前期日程一般一次	前期日程一般二次
出願期間	平成21年11月2日(月) ～11日(水)	平成21年11月2日(月) ～11日(水)	平成22年1月5日(火) ～19日(火)	
試験日	平成21年11月29日(日)	平成21年11月29日(日)	1次: 平成22年2月11日(木)	2次: 平成22年2月24日(水)
試験科目	英語、数学、面接、 調査書	英語、数学、面接、 調査書	英語、数学、理科、 小論文	面接、調査書
募集人員	25人程度	10人	75人	
合格発表	平成21年12月8日	平成21年12月8日	平成22年2月20日(土)	平成22年2月27日(土)

福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい
 烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ10数名、入学定員の10%台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせ下さい。

TEL:092-865-6353 FAX:092-865-9484
 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp
 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会

追加合格
 平成22年2月27日(土)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から3月31日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 20 年度収入支出決算

区分	科 目	20 予算 :A	20 決算 :B	20 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	8,362,000	10,015,823	1,653,823	
	会 費 収 入	24,616,000	25,864,990	1,248,990	入会費 :5,167,910 学年会費 :5,153,210 年会費 :15,440,830 準年会費 :103,040
	協 賛 金 収 入	0	0	0	
	手 数 料 収 入	640,000	435,834	▲ 204,166	生命保険
	雑 収 入	120,000	613,286	493,286	同窓会グッズ
	預 り 金 収 入	160,000	163,360	3,360	
	積 立 金 繰 入	0	0	0	
	仮 受 金	1,500,000	2,000,000	500,000	
	借 入 金	0	2,000,000	2,000,000	
	合 計	35,398,000	41,093,293	5,695,293	
支 出	給 与	4,251,000	4,313,770	62,770	事務局 3 名
	旅 費	1,720,000	1,753,397	33,397	役員旅費 :861,612 評議員会 :274,620 私大連絡会 :165,580 その他
	事 務 用 品 費	360,000	296,800	▲ 63,200	
	印 刷 費	1,980,000	1,929,115	▲ 50,885	会報 :1,660,365 その他
	通 信 運 搬 費	2,632,000	1,328,722	▲ 1,303,278	会報 :468,342 切手葉書 :406,000 電信電話 :94,064 メール便 :360,316 ほか
	設 備 工 事 費	240,000	210,000	▲ 30,000	インターネット
	什 器 備 品 費	240,000	0	▲ 240,000	
	事 業 費	15,245,000	8,971,422	▲ 6,273,578	総会費 :51,070 講師招聘援助金 :130,000 支部活動費 :1,072,040 研究奨励費 :1,006,584 在外研究援助金 :800,000 M4 奨励会 :909,415 国試奨励会 :762,450 M7 奨励会 :102,000 夏期計 :471,940 講師謝礼 :566,600 国試応援 :526,714 学生行事援助 :385,900 M5 白衣贈与 :926,504 慶弔 :1,206,200 ほか
	会 議 費	1,600,000	1,202,586	▲ 397,414	理事会, 会長懇話会 :494,348 評議員会 :466,856 各種委員会ほか :241,382
	公 租 公 課	70,000	70,000	0	法人県市民税
	雑 費	3,032,000	3,657,779	625,779	税理士報酬 :31,500 渉外費 :711,754 業務用グッズ :88,240 寄付金 :300,000 75 周年記念事業 :1,373,285
	預 り 金 支 出	160,000	183,760	23,760	
	引 当 金 積 立	2,000,000	0	▲ 2,000,000	
	仮 渡 金	1,500,000	2,000,000	500,000	
	借 入 金 返 却	0	2,000,000	2,000,000	
予 備 費	368,000	0	▲ 368,000		
	合 計	35,398,000	27,917,351	▲ 7,480,649	
収 支 差 引		0	13,175,942	13,175,942	

平成 20 年度残金処分

残金額 (収支差引額)	13,175,942 円
事業積立金積立	1,000,000 円
刊行物積立金	1,000,000 円
次年度繰越	11,175,942 円

平成 20 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	99,065,994	3,875,570	3,010,433	105,951,997
本年度増加額	1,000,000	0	2,000,000	3,000,000
本年度受取利息	70,508	0	0	70,508
本年度減少額				0
本年度未決額	100,136,502	3,875,570	5,010,433	109,022,505

平成 20 年度事業報告と平成 21 年度事業計画

項目	年度		平成 21 年度 事業計画	
	平成 20 年度 事業計画	平成 20 年度 事業報告	平成 21 年度 事業計画	C - A
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	
① 会報の発行	2,412,000	2,128,707	2,700,000	288,000
② 総会の開催	450,000	51,070	200,000	▲ 250,000
③ 支部活動援助	1,750,000	1,202,040	1,550,000	▲ 200,000
④ 研究奨励賞	1,900,000	1,006,584	1,000,000	▲ 900,000
⑤ 在外研究援助	2,000,000	800,000	1,500,000	▲ 500,000
⑥ 学生対策	2,300,000	1,827,870	2,800,000	500,000
⑦ 白衣贈与	1,000,000	926,504	1,000,000	0
⑧ 国試対策費	2,700,000	1,565,254	2,000,000	▲ 700,000
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	120,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	700,000	385,900	800,000	1,000,000
⑪ 慶弔贈与	115,000	1,086,200	300,000	185,000
⑫ グッズ作製	500,000	0	0	▲ 500,000
⑬ 会員名簿の発行	0	0	0	0
⑭ パニックマニュアルの発行	0	0	5,000,000	5,000,000
⑮ 奨学金緊急貸与	1,000,000	0	0	▲ 1,000,000
合計	17,057,000	11,100,129	19,080,000	2,023,000

平成 21 年度収入支出予算

区分	科目	20 予算	21 予算	21 年度予算摘要	21 予算-20 予算
収入	繰越金	8,362,000	12,000,000		3,638,000
	会費収入	24,616,000	25,752,000	入会費 :5,190,000 学年会費 :4,446,000 年会費 :15,976,000 準年会費 :140,000	1,136,000
	協賛金収入	0	0	名簿発行なし	0
	手数料収入	640,000	235,000	集金手数料ほか	▲ 405,000
	雑収入	120,000	120,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	160,000	160,000	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	0	5,000,000	刊行物積立金より	5,000,000
	仮受金	1,500,000	1,000,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮受	▲ 500,000
	借入金	0	0	借入不要	0
	合計	35,398,000	44,267,000		8,869,000
支出	給与	4,251,000	4,177,000	職員 1 名、パート 2 名	▲ 74,000
	旅費	1,720,000	1,904,000	役員旅費他	184,000
	事務用品費	360,000	300,000		▲ 60,000
	印刷費	1,980,000	7,240,000	会報 : 年 2 回、パニックマニュアル 5 年に 1 回、その他	5,260,000
	通信運搬費	2,632,000	1,816,000	電信電話、会報、パニックマニュアル、切手葉書ほか	▲ 816,000
	設備工事費	240,000	240,000	維持契約、その他	0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	15,245,000	15,945,000	総会費 講師招聘援助費 支部活動費 研究奨励賞 在外研究援助金 新入生歓迎会 M 4 激励会 国試激励会 M 7 激励会 白衣贈与 国試対策費 国試応援費 支部祝儀贈与 学生行事援助 慶弔贈与 事業予備費	700,000
	会議費	1,600,000	1,600,000	理事会、会長懇話会、評議員会、各種委員会、その他	0
	公租公課	70,000	70,000	法人県市民税 :70,000	0
	雑費	3,032,000	3,032,000	税理士報酬、渉外費、寄付金、その他	0
	預り金支出	160,000	160,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	2,000,000	2,000,000		0
	仮渡金	1,500,000	1,500,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮渡	0
借入金返却	0	0		0	
予備費	368,000	4,043,000		3,675,000	
	合計	35,398,000	44,267,000		8,869,000
	収支差引	0	0		0

医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の※印は内科第一・第二・消化器科の代表医長)

平成21年10月現在

	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	石塚賢治	石津昌直 ^{②①}	田中俊裕 ^{①⑦}
内分泌・糖尿病内科	安西慶三	工藤忠睦 ^{②③}	明比祐子
循環器内科	河村彰 ^{①⑦}	藤見幹太 ^{①⑧}	岩田敦 ^{②⑩}
消化器内科	岩田郁 ^{①③}	山口真三志 ^{①⑧}	入江真 ^{①③}
呼吸器内科	藤田昌樹	廣田貴子	豊島秀夫 ^⑧
腎臓・膠原病内科	中島衡	安部泰弘 ^{②①}	小河原悟 ^⑦
神経内科・健康管理科	馬場康彦 ^{②⑩}	井上展聡 ^{②①}	合馬慎二 ^{②③} (神経)
〃			宗清正紀 (健管)
精神神経科	田中謙太郎 ^{②⑤}	吉田公輔	永井宏 ^{②②}
〃 (ディケア)			平川清人
小児科	井上貴仁 ^{①⑤}	森島直美	田中美紀 ^{①⑦}
消化器外科	篠原徹雄 ^{①②}	星野誠一郎	松尾勝一 ^{①①}
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	吉永康照 ^{①①}	濱武大輔 ^{②⑩}	今給黎尚幸 ^{①⑨}
整形外科	佐伯和彦 ^{①⑤}	西尾淳 ^{①⑧}	金澤和貴
形成外科	牧野太郎 ^{②⑤}	西平智和 ^{②⑥}	衛藤明子
脳神経外科	大城真也 ^{①①}	安部洋 ^{②⑩}	八尋龍巳 ^{②⑩}
心臓血管外科	竹内一馬 ^{②⑩}	伊藤信久	西見優
皮膚科	高橋聡 ^{②①}	伊藤宏太郎 ^{②⑥}	古賀文二 ^{②③}
泌尿器科	松岡弘文 ^⑧	中村信之 ^⑩	入江慎一郎 ^{①⑦}
産婦人科	小濱大嗣 ^{①⑤}	野尻剛志 ^{②①} (3東)	城田京子
〃		堀内新司 ^{①⑧} (3北)	
眼科	尾崎弘明	近藤寛之	有田直子 ^{①⑤}
耳鼻咽喉科	宮城司道 ^⑨	末田尚之 ^{①⑦}	山野貴史 ^{①⑧}
放射線科	藤光律子 ^⑧	高良真一 ^{①⑧}	山下真一 ^{②⑩}
麻酔科	香取清 ^{①③}	平田和彦 ^{①②}	平田和彦 ^{①②}
歯科口腔外科	古田治彦	瀬戸美夏	青柳直子
病理部	久野敏		
臨床検査部	松本直通 ^{①④}		
輸血部	熊川みどり		
救命救急センター	喜多村泰輔 ^{①⑥}	田中潤一	
総合周産期母子医療センター		中村公紀 ^{①⑥}	
総合診療部	北島研 ^{②①}	柏木謙一郎	鍋島茂樹 ^{①③}
東洋医学診療部	久保田正樹 ^{①④}		
[筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	富田健一 ^{②①}		
内科第一	山之内良雄 ^⑦	東條秀明 ^{①⑦}	三好恵 ^{①⑤}
内科第二	※富田健一 ^{②①}	富田健一 ^{②①}	田中誠 ^{②⑦}
消化器科・内視鏡部	高木靖寛 ^{①⑤}	平井郁仁 ^{①④}	光安智子
小児科	深町滋 ^{①⑧}	城谷吾郎	鶴澤礼実
外科	三上公治 ^{①③}	永川祐二 ^{①⑨}	富安孝成 ^{②③}
整形外科	秋吉祐一郎	篠田毅 ^{②③}	毛利正玄 ^{①⑥}
脳神経外科	堤正則	相川博	鬼塚正成
泌尿器科	石井龍 ^⑤	平浩志 ^{①⑤}	石井龍 ^⑤
眼科	吉田茂生	吉田茂生	佐伯有祐
耳鼻咽喉科	一番ヶ瀬崇 ^{①⑨}	一番ヶ瀬崇 ^{①⑨}	上野哲子 ^{②④}
放射線科	中島力哉 ^{①④}		
麻酔科	生野慎二郎 ^⑧		
病理部	原岡誠司		
救急部	紙谷孝則 ^{①⑤}		

大学首脳人事 (関係分抜粋・就任はいずれも12月1日)

医 学 部 長	黒 木 政 秀 (生化学)
福 岡 大 学 病 院 長	内 藤 正 俊 (整形外科学)
福 岡 大 学 副 病 院 長	向 坂 彰 太 郎 (消化器内科学)
”	比 嘉 和 夫 (麻酔科学)
”	山 下 裕 一 (消化器外科学)
福 岡 大 学 筑 紫 病 院 長	岩 下 明 徳 (筑紫病理部)
福 岡 大 学 筑 紫 副 病 院 長	前 川 隆 文 (筑紫外科)
”	松 井 敏 幸 (筑紫消化器科)
医 学 研 究 科 長	田 村 和 夫 (腫瘍・血液・感染症内科学)
大 学 協 議 員	守 山 正 樹 (公衆衛生学)
教 務 委 員	出 石 宗 仁 (教育計画部)
学 生 部 委 員	大 慈 弥 裕 之 (形成外科学)

教育職員人事 (講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回)
[平成 20.10.2 ~ 21.4.1]

区分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
休 職	病 理 学	准 教 授	中 山 吉 福 ^⑦	21. 7. 1	
退 職	筑 紫 内 科 第 二	准 教 授	鈴 宮 淳 司	21. 9.10	
	産 婦 人 科	准 教 授	井 上 善 仁	21. 9.30	
	心 臓 血 管 外 科	講 師	岩 橋 英 彦 ^⑰	21. 9.30	
	再 生 ・ 移 植 医 学	講 師	中 野 昌 彦	21. 9.30	
	筑 紫 内 科 第 二	講 師	飯 野 研 三	21. 9.30	
昇 格	筑 紫 整 形 外 科	教 授	柴 田 陽 三 ^④	21.10. 1	
	消 化 器 内 科 学	准 教 授	青 柳 邦 彦	21.10. 1	
	総合周産期母子医療センター	准 教 授	増 本 幸 二	21.10. 1	
	総合周産期母子医療センター	准 教 授	吉 里 俊 幸	21.10. 1	
	筑 紫 消 化 器 科	准 教 授	植 木 敏 晴 ^⑧	21.10. 1	
	筑 紫 内 視 鏡 部	准 教 授	八 尾 建 史	21.10. 1	
	整 形 外 科 学	講 師	伊 崎 輝 昌	21.10. 1	
	形 成 外 科 学	講 師	高 木 誠 司	21.10. 1	
	循 環 器 内 科	講 師	岩 田 敦 ^⑳	21.10. 1	
	循 環 器 内 科	講 師	河 村 彰 ^⑰	21.10. 1	
	消 化 器 外 科	講 師	佐々木 隆 光 ^⑱	21.10. 1	
	整 形 外 科	講 師	城 島 宏 ^⑭	21.10. 1	
	放 射 線 部	講 師	野 元 諭	21.10. 1	
筑 紫 内 科 第 一	講 師	三 好 恵 ^⑮	21.10. 1		

正会員 75 周年 寄付情報 1 (第 8 回発表分まで)

No.	支部/回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	111 七隈	1,000,000		1,515,000	300,000	400,000	300,000		340,000				30,000	125,000			210,000		20,000
2	112 筑紫病院	20,000	500,000			100,000					300,000			30,000					130,000
3	113 福岡	1,540,000	1,500,000	1,300,000	400,000	2,000,000	1,000,000	2,320,000	1,240,000	2,000,000	300,000	2,420,000	100,000			1,100,000	300,000	10,000	
4	114 赤十字																		
5	115 北九州		1,650,000	400,000	1,100,000	1,250,000	900,000		680,000	1,125,000	600,000	410,000	120,000	350,000		300,000	300,000	170,000	
6	116 飯塚				100,000						300,000				100,000		50,000		
7	117 筑豊			2,000,000									300,000						
8	118 筑紫	600,000			300,000	300,000		300,000	300,000										400,000
9	119 朝倉	300,000		600,000			300,000	300,000	300,000										
10	120 筑後	250,000	500,000	300,000	900,000	400,000		300,000	400,000		600,000		320,000	750,000	10,000		520,000		
11	130 佐賀	300,000	300,000	750,000	100,000	400,000	150,000	50,000	100,000	20,000		50,000	200,000		100,000				20,000
12	141 長崎	300,000	100,000	50,000			300,000	100,000	200,000	10,000		10,000		100,000					
13	142 佐世保			100,000	200,000		100,000	200,000	700,000	100,000							20,000		
14	150 熊本				610,000	470,000	200,000	160,000	160,000	130,000	110,000	110,000					100,000	100,000	
15	160 大分	300,000		110,000			1,100,000	300,000	550,000	200,000	100,000	100,000	100,000						
16	170 宮崎	400,000	400,000	100,000	250,000	1,000,000	50,000	400,000	200,000		100,000	50,000							
17	180 鹿児島		110,000	100,000	200,000	60,000	400,000	50,000	110,000	100,000	10,000		400,000		100,000	10,000			300,000
18	190 沖縄			100,000				300,000	150,000										
19	200 中国	100,000	300,000	200,000		300,000		10,000	30,000	530,000	300,000	100,000	30,000	210,000					
20	220 広島					100,000				100,000		110,000	100,000	300,000	150,000		100,000	100,000	10,000
21	300 四国					100,000	100,000	20,000	100,000		100,000								
22	400 関西		200,000									100,000					50,000		
23	500 中部				100,000														
24	600 関東									10,000	100,000								
25	700 東北					20,000											30,000		
26	800 北海道								10,000										
27	外国																		
28	不明																		
29	合計	5,110,000	5,560,000	7,625,000	4,560,000	6,800,000	4,900,000	4,810,000	5,570,000	4,325,000	2,920,000	3,460,000	1,700,000	1,865,000	460,000	1,410,000	1,680,000	380,000	880,000
30	総人員 A	60	81	85	116	110	116	121	149	116	103	116	91	114	98	95	126	103	98
31	寄付人員 B	18	23	28	27	28	25	29	35	22	14	23	14	16	5	7	13	6	7
32	B/A(%)	30	28	33	23	25	22	24	23	12	14	20	15	14	5	7	10	6	7

No.	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	合計	人数 C	寄付数 D	D/C	支部 2	
1		20,000	50,000	300,000		10,000	20,000	60,000	20,000	70,000		70,000	20,000		4,880,000	371	39	11	111 七隈	
2										70,000	30,000	20,000			1,130,000	99	11	11	112 筑紫病院	
3	10,000			50,000	10,000	300,000					300,000				18,200,000	666	71	11	113 福岡	
4															0	19	0	0	114 赤十字	
5										100,000			90,000		9,545,000	230	49	21	115 北九州	
6												20,000			470,000	46	4	9	116 飯塚	
7															2,100,000	35	2	6	117 筑豊	
8	50,000												50,000		2,600,000	106	10	9	118 筑紫	
9															1,800,000	23	6	26	119 朝倉	
10													10,000		5,260,000	183	23	13	120 筑後	
11	40,000														2,580,000	143	27	19	130 佐賀	
12	100,000		10,000												1,280,000	107	13	12	141 長崎	
13															1,430,000	42	11	26	142 佐世保	
14					300,000					50,000				20,000	2,520,000	173	29	17	150 熊本	
15	100,000	10,000						40,000							3,010,000	81	20	25	160 大分	
16															2,970,000	78	16	21	170 宮崎	
17	100,000				100,000							10,000			2,160,000	156	22	14	180 鹿児島	
18															550,000	49	3	6	190 沖繩	
19	10,000									1,000,000					3,120,000	97	16	17	200 中国	
20								10,000							1,090,000	108	12	11	220 広島	
21									30,000						450,000	52	6	12	300 四国	
22									150,000		20,000				520,000	146	6	4	400 関西	
23															110,000	53	2	4	500 中部	
24	100,000									100,000	10,000	20,000	100,000		540,000	150	9	4	600 関東	
25															50,000	12	2	17	700 東北	
26															10,000	12	1	8	800 北海道	
27															30,000	17	1	6	外国	
28															0	24	0	0	不明	
29	510,000	30,000	290,000	390,000	420,000	310,000	20,000	110,000	200,000	1,320,000	360,000	140,000	270,000	20,000	68,405,000				合計	
30	105	109	93	95	93	90	94	102	99	95	112	97	91	106		3278				総人員 A
31	10	3	5	5	4	2	2	7	3	8	6	9	6	1			411			寄付人員 B
32	10	3	5	5	4	2	2	7	3	5	5	9	7	1				12.5		B/A(%)

支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付
佐	9	宇都宮 賢二	20,000	宮	4	野田 寛	150,000	中	4	吉兼 正文	100,000	東	9	長野 康人	10,000								
	11	池田 信博	50,000		5	中山 郁男	1,000,000		22	吉田 健一郎	10,000		10	原野 和芳	100,000								
	12	加藤 博彦	100,000		6	佐井 伸男	50,000			合計金額	110,000		19	宮崎 堅輔	100,000								
	14	酒井 正平	100,000		7	岸 重雄	300,000			支部総数 (A)	53		21	丸山 英和	100,000								
	18	平松 宏章	20,000		8	黒木 重郎	100,000			納入者数 (B)	2		28	稲垣 祐子	100,000								
	19	麻生 宏樹	20,000		7	鮫島 哲也	100,000			B/A	3.8%		30	山田 祐介	10,000								
	19	久保田 明子	10,000		8	平野 哲也	100,000			1	市原 巖		100,000	31	梅根 紀代子	10,000							
		合計金額	2,580,000		11	富田 敏彦	50,000			2	重岡 秀信		300,000		川口 新治	10,000							
		支部総数 (A)	143		22	北川 晃子	20,000			3	應儀 武彦		100,000		徳田 崇利	100,000							
		納入者数 (B)	27			合計金額	2,970,000			5	小笠原 康二		300,000		合計金額	540,000							
		B/A	18.9%			支部総数 (A)	78			7	河内山 高史		10,000		支部総数 (A)	150							
	長	1	藤田 直樹		100,000		納入者数 (B)		16	8	河内山 高史		10,000		納入者数 (B)	9							
		2	今田 達也		200,000		B/A		20.5%	9	水津 貴		30,000		B/A	6.0%							
		3	中村 美貴子		50,000		2		山下 行博	10,000	10		新田 佳示	500,000		若松 秀樹	20,000						
		6	哲翁 和博		300,000		2		山下 行博	10,000	11		船津 春美	300,000		合計金額	50,000						
		7	伊崎 祐介		100,000		3		柴田 邦彦	100,000	12		篠山 理香	30,000		支部総数 (A)	12						
		8	立木 均		100,000		4		萩原 隆二	100,000	13		廣田 修	200,000		納入者数 (B)	2						
		8	藤井 正博		100,000		5		篠原 龍彦	10,000	13		廣田 修	200,000		B/A	16.7%						
		9	詫摩 宏明		10,000		5		高江 政伸	50,000	13		奥村 剛清	10,000		合計金額	10,000						
11		濱崎 和彰	10,000		6	瀧田 裕二	300,000	19	河内 啓一郎	1,000,000		支部総数 (A)	12										
13		村上 正彰	100,000		6	林田 郷子	100,000	28	河内 啓一郎	1,000,000		納入者数 (B)	1										
19		藤原 靖子	100,000		7	下野 健治	50,000		合計金額	3,120,000		合計金額	83%										
21	倉和 和生	10,000		8	有馬 知子	10,000		納入者数 (B)	16		納入者数 (B)	1											
崎	3	北川 雪子	100,000		8	有馬 知子	10,000		5	菅田 耕一	100,000		21	川浪 大治	30,000								
	4	山川 裕	100,000		9	王谷 英仁	100,000		9	卜部 智重	100,000			合計金額	30,000								
	4	山崎 恵三	100,000		10	有馬 博隆	10,000		9	杉原 重子	100,000			支部総数 (A)	17								
	6	豊村 操	100,000		12	中村 英助	300,000		11	杉原 重子	10,000			納入者数 (B)	1								
	7	池永 英恒	100,000		12	守屋 豪貴	300,000		11	杉原 重子	10,000			合計金額	5,9%								
	7	富田 春三	100,000		14	小田代 晃治	100,000		12	河内 基弘	100,000			支部総数 (A)	12								
	8	吉本 正彦	600,000		14	小田代 晃治	100,000		12	河内 基弘	100,000			納入者数 (B)	1								
	8	久保 次郎	100,000		15	海江田 衛	10,000		13	山本 竜	300,000			合計金額	10,000								
	9	野元 秀彦	100,000		18	中目 和彦	300,000		14	加藤 晶子	150,000			支部総数 (A)	8.3%								
	16	山内 秀明	20,000		19	濱崎 喜興志	100,000		14	越智 公則	100,000			合計金額	30,000								
	22	宇野 英明	10,000		23	上山 記代	100,000		16	越智 公則	100,000			支部総数 (A)	17								
	合計金額	1,430,000		30	上村 徳郎	10,000		17	佐藤 克敏	100,000			納入者数 (B)	1									
	支部総数 (A)	42			合計金額	2,160,000		18	西岡 真美	10,000			合計金額	5,9%									
	納入者数 (B)	11			支部総数 (A)	156		26	矢野 彩子	10,000			支部総数 (A)	12									
	B/A	26.2%			納入者数 (B)	22		26	河原 純一	10,000			納入者数 (B)	1									
保	4	大園 知之	150,000		3	野原 薫	100,000			合計金額	1,090,000			合計金額	70,937,134								
	4	権頭 博	100,000		7	知念 徹	300,000			支部総数 (A)	108			支部総数 (A)	555								
	4	執行 智子	100,000		8	照屋 勉	150,000			納入者数 (B)	12			納入者数 (B)	16.90%								
	4	白水 茂輝	50,000			合計金額	550,000		2	金内 規巳子	100,000			合計金額	555								
	4	宮村 靖	10,000			支部総数 (A)	49		2	別當 吉幸	100,000			支部総数 (A)	11.1%								
	4	宮竹 聖彦	100,000			納入者数 (B)	3		11	別當 高	100,000			納入者数 (B)	10,000								
	4	渡邊 亨	100,000			B/A	6.1%		16	正木 淳	50,000			合計金額	520,000								
	4	魚返 英寛	20,000			5	鈴木 俊二	100,000		27	村田 清一	150,000			支部総数 (A)	146							
	5	大宮 郷子	100,000			7	濱崎 寛	20,000		29	吉川 重史	20,000			納入者数 (B)	6							
						8	岩本 正博	100,000			合計金額	520,000			合計金額	4.1%							
						10	赤井 幸司	100,000			支部総数 (A)	146			支部総数 (A)	6							
					21	小泉 幸司	300,000			納入者数 (B)	6			納入者数 (B)	4.1%								
					27	青見 賢明	30,000			B/A	4.1%			B/A	4.1%								
						合計金額	450,000			合計金額	520,000			合計金額	2,532,134								
						支部総数 (A)	52			支部総数 (A)	146			支部総数 (A)	5.9%								
						納入者数 (B)	6			納入者数 (B)	6			納入者数 (B)	5.9%								
						B/A	11.5%			B/A	4.1%			B/A	5.9%								

計 68,405,000

総合計金額 70,937,134

総納入数 555

16.90%

第29回 医学祭



公開講演：心臓病のこどもに笑顔を：角秀秋先生



医学展



模擬店

編 集 後 記

平成21年秋号の烏帽子会報をお届けします。会報の作成にあたりましては、関係部署の方々にご協力下さしまして誠にありがとうございました。

今回は宮本新吾先生、柳瀬敏彦先生、柴田陽三先生を新たに教授としてお迎えすることができました。池田靖洋先生、22年間の長きにわたりご指導くださいまして、ありがとうございました。また今回は、基礎医学講座と筑紫病院を中心に教室や医局の活動状況を紹介していただきました。それぞれの活発な研究や臨床の内容がよく分かります。この企画は来年以降も続けてゆきたいと考えています。

平成20年度には福岡大学病院では、1,584人の職員が33万人の外来患者と27万人の入院患者を診療しました。手術件数は6,947件ののぼり、昨年に比べさらに増加しました。平成20年10月には新診療棟が着工にいたり、平成21年元旦からは第三期統合医療情報システムが稼働開始となりました。院内医療安全の面でもいろいろな課題が表出しましたが、職員が一丸となり問題解決に向かいました。

医学部、病院そして同窓会が一体となって母校の発展に努めています。烏帽子会報は今後も内容の充実を努めてゆく所存です。これからもみなさまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大慈弥 裕之（広報担当理事）

烏帽子会会報第47号

発行日 平成21年11月15日

発行人 高木 忠博

編集人 大慈弥裕之

発行所

〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話 092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX 092-865-9484

E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所

ロータリー印刷(株)

福岡市中央区長浜2-1-30

電話 092-711-7741

FAX 092-711-7901